

教 育 研 究 業 績 書

令和 5年 5月 1日

氏名 福田大祐 印

研 究 分 野	研 究 内 容 の キ ー ワ ー ド	
看護学	精神看護学	
教 育 上 の 能 力 に 関 す る 事 項		
事 項	年 月 日	概 要
1 教育方法の実践例 1. 情報リテラシーを応用した小論文の書き方の演習と他者評価の実施	令和4年4月～ 現在に至る	常磐大学大学院看護学研究科の准教授として担当の「高等教育のための情報リテラシー（共通科目・1年次配当）」において、情報リテラシーを応用し得られた情報を基盤に学術的な小論文を作成し、批判的にとらえるための読み方（内的批判）についてチェックリストを用いた他者評価を行っている。建設的なディスカッションを行うことで、院生から「他者の考えや評価を受けることで、情報の整理や論理的な考え方を深めることができた」等の評価が得られ、論理的思考や批判的思考を高めることができた。
2. 精神障がい者のリハビリを支援する統合実習の工夫	令和3年4月～ 現在に至る	常磐大学看護学部の准教授として担当の「総合実習（専門科目・4年次配当）」「看護課題の探求（専門科目・4年次配当）」において、精神科病棟と精神科デイケア、自立支援施設を組み合わせた実習を行っている。精神障がい者のリハビリへの支援が重要視されていることから、患者の病識の理解や服薬アドヒアランスの向上、病状の振り返り等について学生自身が実習目標を立て、教育的な看護援助を展開する。学生から「対象のストレングスをいかし、その人らしさを考えた看護を実践することができた」等の評価が得られた。
3. 映像教材を活用したグループワーク演習の実施	令和3年4月～ 現在に至る	常磐大学看護学部の准教授として担当の「看護の質改善（専門科目・4年次配当）」において、独自に作成した映像教材を用いてグループワーク演習を行っている。教材はリエゾン精神看護の視点から、手術後にせん妄が出現した患者と看護師との看護場面を設定した。学生が新人看護師の立場から、患者の転倒・転落や輸液ラインの抜去等、医療安全を意識して看護の質改善を評価できるようにせん妄の評価指標を用いて場面を分析し、グループで共有後に全体ディスカッションを行う。学生から「リアリティのある医療現場を想定し、看護の質を改善するための評価と看護実践について理解することができた」等の評価が得られた。
4. 経験型実習教育を取り入れた学習過程の展開	令和2年9月～ 現在に至る	常磐大学看護学部の准教授として担当の「精神看護学実習」（専門科目・3年次配当）において、経験型実習教育を実践している。実際のコミュニケーション場面等、学生が自ら経験した出来事（直接的経験）から教員がテーマを選択し「教材化」する。ディスカッションを通して学生が自らの経験の意味を探究し説明できる経験（反省的経験）を促す。学生から「自らの経験を意味づけ、精神看護とは何かを考えることができた」等の評価が得られ、患者理解や論理的思考を高めることができた。

5. 精神障がい者の地域移行支援を包括的に学習する実習教育	令和2年9月～現在に至る	常磐大学看護学部の准教授として担当の「精神看護学実習」（専門科目・3年次配当）において、1週目に病棟実習、2週目に精神科デイケア・自立支援施設実習を導入している。精神障がい者の入院医療中心から地域生活中心への支援が重要視されていることから、精神疾患のある人を地域で支えるための看護を学習する。精神保健医療福祉チームとして地域包括ケアに関わる看護職の役割を考え、対象のリハビリを支援するための看護を学修する。学生から「病棟と地域生活とのつながりを考えて、一人の患者を捉えることができた」等の評価が得られた。
6. オンライン実習に対応したICT遠隔教育の導入	令和2年9月～現在に至る	常磐大学看護学部の准教授として担当の「精神看護学実習」（専門科目・3年次配当）において、オンライン実習に対応できるよう映像教材を作成し、オンライン上でロールプレイ型実習を行っている。受け持ち事例として統合失調症者の看護場面を設定し教員・学生が患者や看護師役となり、申し送りへの参加や実習指導者への報告、対象との関わり等、一連の実習内容に対応できるように構成した。学生から「病棟の様子や対象についてイメージが膨らんだ」「実習へ参加する意識が高まった」等の評価が得られ、本実習の目標達成につなげることができた。
7. 授業資料のダウンロードや映像教材へのリンクができるウェブサイトの活用	令和2年9月～現在に至る	常磐大学看護学部の准教授として担当の「精神看護援助」「精神看護学実習」（専門科目・3年次配当）において、e-Learningシステム（Moodle）上に本授業のコースを作成している。学生の学習効果を高められるよう、講義や演習、実習に関連した資料やレポート用紙・記録用紙のダウンロード、映像教材のURLへリンクができるようにしている。学生に貸与されているiPadを併用することで効率的な学習を促している。
8. 実習場면을再構成するプロセスレコードの導入	令和2年9月～現在に至る	常磐大学看護学部の准教授として担当の「精神看護学実習」（専門科目・3年次配当）において、プロセスレコードを活用した病棟カンファレンスを実施している。学生が実習中の一場面を振り返ることで、患者と自分の言動や感情を再構成し、自分を見直すことを促している。実習指導者からの意見や助言を受けることで患者との関わりを客観的な視点で理解できるようサポートする。学生から「グループメンバーや指導者、教員と話し合うことで自分自身の内面を深く振り返ることができた」等の意見や感想が得られた。
9. 倫理的感受性を高めるカンファレンスの導入	令和2年9月～現在に至る	常磐大学看護学部の准教授として担当の「精神看護学実習」（専門科目・3年次配当）において、精神看護の倫理的課題を考える病棟カンファレンスを実施している。事前課題として学生が倫理的な問題のある場面や状況について、対立する倫理原則に従い分析する。状況の分析と対象にとって最善の考えについて指導者も交えてディスカッションを行う。学生から「お互いの価値観や患者にとって最善の看護を考えることができた」等の評価が得られた。

10. 臨地実習で学習した内容の共有とプレゼンテーションの実施	令和2年9月～ 現在に至る	常磐大学看護学部の准教授として担当の「精神看護学実習」（専門科目・3年次配当）において、各クールの最終日に学内実習として6施設に分かれていた学生が集まり、各自で学習した内容の共有を行っている。受け持ち患者の看護を通じた学びや精神看護をどのように考え今後の学習に活かして行きたいかプレゼンテーションを行う。学生から「実習を振り返り、自己の成長だけではなく今後の課題や目標を立てることができた」等の評価が得られた。
11. e-Learningシステムを活用したオンデマンド授業の導入	令和2年4月～ 現在に至る	常磐大学看護学部の准教授として担当の「精神看護援助」（専門科目・3年次配当）において、LMS（Learning Management System）を用いた授業を実践している。オンデマンド授業の構成（1回90分）として、講義動画と課題レポート、各回の到達度を確認する小テストをアップロードし、小テストは回答後に自動で解説をフィードバックできるように設定した。学生から「繰り返し講義を視聴することで要点をまとめ、小テストでは授業のポイントを確認することができた」等の評価が得られた。
12. OSCE（客観的臨床能力試験）の展開	令和2年4月～ 現在に至る	常磐大学看護学部の准教授として担当の「看護展開導入演習」（専門科目・3年次配当）において、精神看護に関するOSCEを担当している。シナリオは実習場面を想定し、成人男性が検査入院（がん疾患）により今後の生活への不安を訴える場面を設定した。5分間の中でパフォーマンスと心理状態のアセスメントに関する質問時間を設定し知識・技術・態度の統合を評価する。学生から「繰り返し練習を行い自分の到達度を評価することで実習に活用できると思った」等と高い評価が得られた。
13. シミュレーション教育を取り入れたシナリオ学習	令和2年4月～ 現在に至る	常磐大学看護学部の准教授として担当の「生涯発達における援助技術」（専門科目・3年次配当）において、アサーティブコミュニケーションの演習を担当している。シナリオは実習場面を想定し、大腸がん疑いで入院した成人男性を設定した。ブリーフィングでは講義の振り返りと体験学習の意義を説明し、セッションで役割を決め看護を体験する。デブリーフィングではGAS（Gather・Analyze・Summarize）法を用いて体験の思考・行動の再構成を図る。演習後のレポート課題では「対象の心理状態をアセスメントし、実習場面を想定しながら体験できた」等の評価が得られた。
14. 作成した教科書等を活用した授業の展開とシミュレーション教育を取り入れたロールプレイ演習	令和2年4月～ 現在に至る	常磐大学看護学部の准教授として担当の「精神看護援助」（専門科目・3年次配当）において、精神疾患の看護援助、リエゾン精神看護等を担当している。講義では国内外の精神看護の動向をふまえて、重要な概念や理論に基づいた援助方法を学修する。臨床経験から統合失調症や気分障害の看護、精神科リエゾンチームの活動事例を紹介し、ケースレポートにより到達度を確認する。演習では統合失調症の回復過程場面のロールプレイを実践する。ゲストスピーカーとして統合失調症当事者と家族会の体験談を聴講し課題レポートを課している。学生から「実際の事例や当事者・家族の話が聴くことができ、援助方法や患者の思いを理解することができた」等の評価が得られた。

15. 映像教材を活用した事後課題の提示	令和2年4月～ 現在に至る	常磐大学看護学部の准教授として担当の「医療問題解決方法（科目責任者）」（基礎科目・2年次配当）において、ノンテクニカルスキルをテーマにしたグループ演習の様子をビデオ録画している。撮影した動画は編集し、LMS上にアップロードし学習の振り返りや課題レポートの作成に活用するよう求めた。学生から「グループ発表の様子を客観的に確認することができ、課題レポートの作成に役立った」等の評価が得られた。
16. PBL（問題基盤型学習）を取り入れたチュートリアル教育	令和元年9月～ 現在に至る	常磐大学看護学部の准教授として担当の「情報と看護展開Ⅱ」（専門科目・2年次配当）において、精神看護に関するPBLを担当している。シナリオは実習場面を想定し、更年期女性のうつ病を題材にした。学生が学習課題について推論を立て、情報の解釈や統合、看護上の課題、援助方法とその根拠を明確にできるようグループダイナミクスを活用しながらチューターがサポートをする。さらに小テストと発表会、自己評価・教員評価を実施している。学生から「情報を分析し、根拠に基づいた知識や援助方法を理解することができた」等の意見が得られた。
17. 文献検索方法とデータベースの活用についての指導	令和元年9月～ 現在に至る	常磐大学看護学部の准教授として担当の「情報と看護展開Ⅱ」（専門科目・2年次配当）において、PBL（問題基盤型学習）を行っている。担当グループのチューターとして、シナリオをもとに学生が学修課題を抽出し、援助の方向性を検討するために情報の検索方法やデータベースの活用について指導を行っている。また得られた情報の根拠や整理、解釈の仕方についてグループでの建設的なディスカッションをサポートしている。学生から「看護の根拠を知るための文献の調べ方や読み取り方が分かった」等の意見が得られた。
18. アクティブラーニングを取り入れたグループワークとロールプレイ演習	令和元年4月～ 現在に至る	常磐大学看護学部の准教授として担当の「医療問題解決方法（科目責任者）」（基礎科目・2年次配当）において、ノンテクニカルスキルをテーマに授業を展開している。「チーム医療を実現するリーダーシップ」「ロジカル・システム思考を使った問題解決」等の課題を提示し学生が経験した看護場面から学習課題に含まれる問いをディスカッションする。調べた情報を共有し、問題解決へ導けるよう教員がサポートし、ロールプレイにて発表する。相互評価・教員評価により到達度を確認し学生から「身近な問題を解決に導くスキルを体験できた。実習等に活かして行きたい」等の高い評価が得られた。
19. 臨床場面の想起を促す講義の展開	平成30年4月～ 令和2年3月	常磐大学看護学部の専任講師として担当の「精神疾患とその治療」（心理学科専門科目・2年次配当）において、脳のしくみと精神機能、気分障害等を担当した。講義では作成した教科書や気分障害、精神疾患の脳機能に関する研究成果から具体的な症状や事例を教授した。さらに公認心理士を希望する学生を対象としていることから、研究で用いた一般的な評価指標の活用方法や結果の解釈方法等を事例提示し、実際の臨床場面を想起できるように促した。各回の最後には小テストを実施し授業の到達度を確認した。

<p>20. 臨床場面の想起を促す講義とワークシートを用いた授業の展開</p>	<p>平成30年4月～令和2年3月</p>	<p>常磐大学看護学部の専任講師として担当の「健康・医療心理学（健康）」（心理学科専門科目・2年次配当）において、精神疾患と生活習慣、医療コミュニケーション等を担当した。講義では生活習慣との関連要因が注目されている気分障害や認知症について、作成した教科書や研究成果から疾患の病態や事例を教授した。さらに、気分障害の認知行動療法について作成したワークシートを用いて学修し、実際の臨床場면을想起できるよう促した。各回の最後には小テストを実施し授業の到達度を確認した。</p>
<p>21. アクティブラーニングを取り入れたグループ演習</p>	<p>平成27年10月～平成30年3月</p>	<p>茨城県立つくば看護専門学校の非常勤講師として担当の「精神看護学方法論」（専門科目・2年次配当）において、精神科医療に関わる法律や主要な疾患の看護援助等を担当した。また、認知行動療法を通して精神看護の役割を理解するためアクティブラーニングを実施した。ワークシート（認知を再構成するコラム表）を共有・ディスカッションし、各自が作成したシートの活用方法を発表した。グループワークにより学生相互の多様な価値観に気づくことができ、実習へ向けたコミュニケーション能力の向上を図ることができた。</p>
<p>2 作成した教科書，教材</p> <p>1. 小論文の書き方の演習資料の作成</p> <p>2. 術後せん妄のある患者の看護場面に関する映像教材の作成</p> <p>3. 大学院受験希望者向けの社会人研修の講義・演習資料の作成</p>	<p>令和4年4月～現在に至る</p> <p>令和3年4月～現在に至る</p> <p>令和3年7月～現在に至る</p>	<p>常磐大学大学院看護学研究科の准教授として担当の「高等教育のための情報リテラシー（共通科目・1年次配当）」において、小論文の構成，論理的な小論文の書き方，リサーチ・クエスションの明確化，文献の内容検討と統合，批判的な読み方等について講義を行い，事後課題として演習資料を作成し次回の授業でプレゼンテーションを行った。講義及び演習資料は予めe-Learningシステム（Moodle）にアップロードし，院生が学外からでも資料を確認し，課題を提出できるよう学習環境を工夫した。</p> <p>常磐大学看護学部の准教授として担当の「看護の質改善（専門科目・4年次配当）」において，教員がモデルとなり術後せん妄のある患者と看護師との看護場面の動画を作成した。動画はせん妄の症状，転倒・転落のリスク，輸液ラインの抜去に関する各2分程度のシナリオで構成した。医療安全や看護の質改善を評価する指標として，実際に医療現場で導入されているチェックリストを活用し，授業の理解度を深められるようにした。</p> <p>常磐大学大学院看護学研究科の准教授として，研究科の受験を希望している社会人に対し小論文の書き方に関する講義資料を作成した。受講者のこれまでの看護実践や教育現場での経験から看護の質の改善や向上につながるアイデアや問いを明確化し，知的好奇心や探究心，批判的・論理的思考力，論理的な日本語文章の作成能力を高められるように工夫した。研修はビデオ会議システムを用い，さらに受講者が研究科での授業をイメージできるように主体的なディスカッションを行う演習を取り入れた。</p>

4. 精神看護のオンライン実習資料・動画の作成	令和2年9月～ 現在に至る	常磐大学看護学部の准教授として担当の「精神看護学実習」（専門科目・3年次配当）において、オンライン実習に対応するためのシナリオや動画を作成した。シナリオは陽性・陰性症状のある統合失調症者の状態や変化を学習できるよう5日間の状況を設定し、教員が患者と看護師役を演じた動画をe-Learningシステム（Moodle）にアップデートした。学生は動画を視聴後、患者とのコミュニケーションや看護師への報告等が行えるようビデオ会議システムを用いて個別またはグループでロールプレイ型実習を設定し、臨地実習をイメージできるように工夫した。
5. 精神看護学実習における記録様式及び実習要項、指導要領の作成	令和2年9月～ 現在に至る	常磐大学看護学部の准教授として担当の「精神看護学実習」（専門科目・3年次配当）において、学生が受け持ち患者の看護展開を実施するうえで使用する記録様式と自己評価表及び教員評価表の作成に関わった。実習記録はセルフケア理論をもとに看護を展開できるよう、さらにプロセスレコードや倫理的問題への気づき、対象のリカバリーや地域支援についての考えをまとめられるように工夫した。また実習が円滑に行えるよう教員と学生、指導者向けの実習要項と指導者向けの指導要領を作成した。
6. 精神看護の演習資料の作成	令和2年4月～ 現在に至る	常磐大学看護学部の准教授として担当の「精神看護援助」（専門科目・3年次配当）において、統合失調症者の急性期・慢性期のロールプレイ演習で使用する教材の作成に関わった。急性期では幻覚や妄想を訴える陽性症状について、慢性期ではリハビリテーションへの拒否・無為自閉の陰性症状についてロールプレイを行い、グループ発表を通して到達度を確認した。
7. 精神看護の講義資料・動画の作成	令和2年4月～ 現在に至る	常磐大学看護学部の准教授として担当の「精神看護援助」（専門科目・3年次配当）において、認知機能と精神疾患、統合失調症・気分障害の病態及び看護援助、薬物療法等について、自身の著書や研究成果、臨床経験を活用し授業で使用する資料（e-Learning教材も含む）を作成した。
8. リエゾン精神看護の講義・演習資料の作成	令和2年4月～ 現在に至る	常磐大学看護学部の准教授として担当の「精神看護援助」（専門科目・3年次配当）において、自身の臨床経験や研究成果から、救急外来や一般病棟、周術期、周産期、移植医療等の事例を提示し、直接ケアや相談、調整、また多職種チームと看護の役割に関する講義資料を作成した。演習では自殺念慮のある身体疾患患者と手術を受ける精神疾患患者への援助を考えるワークシート及び事例をまとめる課題レポートを作成した。
9. OSCEの演習事例の作成	令和2年4月～ 現在に至る	常磐大学看護学部の准教授として担当の「看護展開導入演習」（専門科目・3年次配当）において、検査入院（がん疾患）により今後の生活への不安を訴える成人男性の事例と評価項目（情意・精神運動・認知領域の評価）の作成に関わった。
10. PBLの演習事例の作成	令和元年9月～ 現在に至る	常磐大学看護学部の准教授として担当の「情報と看護展開Ⅱ」（専門科目・2年次配当）において、不定愁訴や自殺念慮を訴える更年期女性のうつ病の事例とグループワーク資料の作成に関わった。また、授業の到達度を評価する小テスト（気分障害の疫学や病態、病状、看護援助のポイント等を確認する）を作成した。

11. レポートのまとめ方と書き方についての講義資料・動画の作成	令和元年4月～現在に至る	常磐大学看護学部の准教授として担当の「医療問題解決方法」（基礎科目・2年次配当）において、看護学生や医療職者としての倫理教育の視点からレポートのまとめ方や書き方についての講義を行った。文献の引用や記載方法、倫理に反する行為等について解説し、作成した配布資料や講義動画をアップデートし学生がいつでも視聴できるようにしている。
12. ノンテクニカルスキルの演習資料・動画の作成	令和元年4月～現在に至る	常磐大学看護学部の准教授として担当の「医療問題解決方法」（基礎科目・2年次配当）において、自身が研修ファシリテーターを務めている筑波大学附属病院（事業名：文部科学省「チーム医療推進のための大学病院職員の人材養成システムの確立 患者中心の医療を実現する人材養成の体系化」）で開発されたノンテクニカルスキルの研修プログラムをもとに、アクティブラーニングやロールプレイの演習資料、動画を作成した。
13. 心理系科目の講義資料の作成	平成30年4月～令和2年3月	常磐大学看護学部の専任講師として担当の「精神疾患とその治療」「健康・医療心理学（健康）」（心理学科専門科目・2年次配当）において、脳のしくみと精神機能、精神疾患と生活習慣、医療コミュニケーション、気分障害等について自身の著書や研究成果を活用し授業で使用する資料を作成した。
14. 認知行動療法の演習資料の作成	平成30年4月～令和2年3月	常磐大学看護学部の専任講師として担当の「健康・医療心理学（健康）」（心理学科専門科目・2年次配当）において、認知を再構成するコラム表をもとに認知行動療法のワークシートを作成した。グループワークで各自が作成したシートを共有し、グループ発表を通して到達度を確認した。
3 教育上の能力に関する大学等の評価 1. 学生による授業評価の結果	令和4年3月 令和3年9月 令和3年9月	常磐大学看護学部の専任講師として担当した「精神看護学実習」（専門科目・3年次配当）において、学生による授業評価を行った。質問項目「教員は相談しやすい雰囲気があった」「教員は学生の反応を見ながら指導していた」の平均点が高く、「教員の助言は実習目標の達成に生かせるものであった」等の評価が得られた。 常磐大学看護学部の専任講師として担当した「医療問題解決方法（科目責任者）」（基礎科目・2年次配当）において、学生による授業評価を行った。質問項目「教員は授業に意欲的に取り組んでいたと感じた」「授業内容は自分の将来に役立つと感じた」の平均点が高く、「授業は面白く工夫されていたので意欲的に取り組むことができた」等の評価が得られた。 常磐大学看護学部の専任講師として担当した「精神看護援助」（専門科目・3年次配当）において、学生による授業評価を行った。質問項目「授業内容は自分の将来に役立つと感じた」「授業はよく準備・計画されていると思った」の平均点が高く、「理解しやすいレジュメであり精神看護について理解を深めることができ良かった」等の評価が得られた。

	令和2年3月	常磐大学看護学部の専任講師として担当した「精神疾患とその治療」（心理学科専門科目・2年次配当）において、学生による授業評価を行った。質問項目「教員は授業に意欲的に取り組み指導は熱心であったか」「授業内容は自分の将来に役立つと思ったか」の平均点が高く、「精神疾患の例を出してくれたので分かりやすかった」等の評価が得られた。
<p>4 実務の経験を有する者についての特記事項</p> <p>1. 常磐大学大学院看護学研究科修士課程における教育実践</p> <p>2. 常磐大学看護学部における教育実践</p> <p>3. 常磐大学看護学部FD活動における教育実践</p>	<p>令和4年4月～現在に至る</p> <p>平成30年4月～現在に至る</p> <p>平成30年4月～現在に至る</p>	<p>常磐大学大学院の専任教員（2022年4月から現在に至る）として、「高等教育のための情報リテラシー（共通科目・1年次配当）」「精神・地域在宅看護学特論（専門科目・1年次配当）」「精神看護学演習（専門科目・1年次配当）」「精神専門看護学特論Ⅰ（専門科目・1年次配当）」「精神専門看護学特論Ⅱ（専門科目・1年次配当）」「精神専門看護学特論Ⅲ（専門科目・1年次配当）」「精神専門看護学特論Ⅳ（専門科目・1年次配当）」「精神専門看護学特論Ⅴ（専門科目・1年次配当）」「精神専門看護学特論Ⅵ（専門科目・1年次配当）」「精神専門看護学演習Ⅰ（専門科目・1年次配当）」「精神専門看護学演習Ⅱ（専門科目・1年次配当）」「精神・地域在宅看護学特別研究（専門科目・1～2年次配当）」「精神・地域在宅看護学実践課題研究（専門科目・1～2年次配当）」「精神専門看護プロジェクト（専門科目・2年次配当）」「高度実践実習（リーダーシップ）（専門科目・2年次配当）」「精神専門看護学実習Ⅰ（専門科目・1年次配当）」「精神専門看護学実習Ⅱ（専門科目・1年次配当）」「精神専門看護学実習Ⅲ（専門科目・2年次配当）」「精神専門看護学実習Ⅳ（専門科目・2年次配当）」「精神専門看護学実習Ⅴ（専門科目・2年次配当）」を担当している。</p> <p>常磐大学看護学部の専任教員（2018年4月から現在に至る）として、「基礎看護学実習Ⅰ」（専門科目・1年次配当）「医療問題解決方法」（基礎科目・2年次配当）「情報と看護展開Ⅱ」（専門科目・2年次配当）「精神看護援助」（専門科目・3年次配当）「生涯発達における援助技術」（専門科目・3年次配当）「看護展開導入演習」（専門科目・3年次配当）「精神看護学実習」（専門科目・3年次配当）「情報と看護展開Ⅲ」（専門科目・3年次配当）「地域包括ケア演習（専門科目・4年次配当）」「看護の質改善（専門科目・4年次配当）」「看護課題の探求（専門科目・4年次配当）」「看護展開統合演習（専門科目・4年次配当）」「総合実習（専門科目・4年次配当）」を担当している。2022年4月から、「学びの技法Ⅰ（学部共通科目・1年次配当）」を担当している。</p> <p>常磐大学看護学部の専任教員として、看護研究に関わるFD研修の責任者を行っている。主に学部内の助教を対象に年間2回の研修会を企画し、お互いの研究活動を共有することで研究の着想やデザイン、目的、方法等、研究を育て成し遂げるために求められる能力の育成を行っている。特に、情報リテラシーを高め研究を実践していくために必要な情報の入手や適切な評価、また整理や統合について自身のこれまでのシステマティックレビュー等をはじめとした研究成果を紹介し、学際的な視点から助言を行っている。</p>

4. 常磐大学人間科学部における教育実践	平成30年4月～令和2年3月	常磐大学看護学部の専任教員として、「精神疾患とその治療」「健康・医療心理学(健康)」(心理学科専門科目・2年次配当)を担当した。
5. 常磐大学看護学部の学生アドバイザー	平成30年4月～現在に至る	常磐大学看護学部において、各学年5名程度の学生アドバイザーを担当し、普段の学習や国家試験対策、進路、大学生生活における相談や助言、指導を行っている。
6. 国立病院機構水戸医療センター・霞ヶ浦医療センター「看護研究研修」講師	平成30年4月～現在に至る	総合病院2施設において基礎・実践の2つのコースを実施している。基礎コースではリサーチクエストのプロセスや研究方法、文献検索とクリティック、研究倫理等の講義・演習、研究計画書の発表会を行っている。実践コースでは研究の実践指導を行い、成果を院内外で公表できるようサポートしている。研修アンケートにより研究を行う自信や職場への活用について肯定的評価が得られている。研究課題はせん妄や認知症の看護、多職種連携、メンタルヘルス支援等に関するテーマが多く、これまでに約20課題を指導した。
7. 筑波大学附属病院での看護管理者への研究指導	平成30年4月～現在に至る	看護師特定行為研修に関する研究課題について、筑波大学附属病院の看護管理者(看護師長、副看護師長)への研究指導を行っている。臨床研究における研究方法や統計学的検定、研究倫理に関するサポートを行っている。また、研究に必要な情報の検索や入手、分析等の一連のプロセスについてICTツールを紹介し適切な方法で研究を実践できるよう指導している。研究成果は学会発表や論文投稿にて公開できるよう共同研究者としてもサポートしている。
8. 筑波大学附属病院での看護師特定行為研修生への指導補助	平成28年4月～平成30年3月	筑波大学附属病院で勤務していた精神神経科病棟において、看護師特定行為研修の指導補助者(特定行為区分:精神及び神経症状に係る薬剤投与関連)として、精神科医師とともに研修生の演習及び実習指導を行った。また、本区分のシラバスや実習評価表の作成に関わった。
9. 茨城県立つくば看護専門学校における教育実践	平成27年10月～平成30年3月	茨城県立つくば看護専門学校の非常勤講師として、「精神看護学方法論」(専門科目・2年次配当)を担当した。
10. 筑波大学医学群看護学類における教育実践	平成25年5月	筑波大学医学群看護学類の非常勤講師として、「フレッシュマンセミナー:キャリアデザインとキャリア形成」(必修科目・1年次配当)を担当した。授業では自身の経歴や私生活を通して、精神科看護師としてのキャリア形成について講義し、学生のキャリアデザインについて考えてもらった。
11. 筑波大学附属病院での看護実習生への指導	平成23年4月～平成30年3月	筑波大学附属病院で勤務していた精神神経科病棟において、臨地実習指導者として年間5つの教育機関(4年制大学または専門学校)の看護学生の実習指導を担当した。
12. 筑波大学附属病院での病棟看護師への研究指導	平成23年4月～平成30年3月	筑波大学附属病院で勤務していた精神神経科病棟において、軽度認知障害や認知症者への看護介入と評価、身体疾患や周産期にある患者の精神保健問題を解決するための直接ケアや相談・調整等のリエゾン精神看護に関する研究課題の指導を行った。研究成果は学会発表や論文投稿にて公表できるよう共同研究者としてもサポートした。

<p>5 その他（表彰）</p> <p>1. 筑波大学大学院人間総合科学研究科看護科学専攻長賞</p> <p>2. 日本精神科看護協会（山形県支部）看護研究論文奨励賞</p>	<p>平成27年3月</p> <p>平成20年4月</p>	<p>学位論文「初期認知症者の実行機能を高める看護介入プログラムの開発」について、看護科学の研究分野において優秀な成績を収め優れた成果をあげたとの理由から専攻長賞を受賞した。</p> <p>研究課題「攻撃行動を繰り返し行動制限を必要とした青年期自閉症患者の一例」について、研究論文が極めて優秀との理由から奨励賞を受賞した。</p>
職務上の実績に関する事項		
事項	年月日	概要
<p>1 資格、免許 （免許）</p> <p>1. 看護師免許</p> <p>2. 保健師免許 （資格）</p> <p>1. 応用心理士（日本応用心理学会認定資格）</p>	<p>平成17年4月</p> <p>平成17年4月</p> <p>平成29年9月</p>	<p>登録番号：1300519</p> <p>登録番号：125025</p> <p>登録番号：336</p>
<p>2 特許等 該当なし</p>		
<p>3 実務の経験を有する者についての特記事項 （委員等実績）</p> <p>1. 入試委員会委員としての活動</p> <p>2. 学部教務委員会委員としての活動</p> <p>3. 入試実施・広報委員会委員としての活動</p> <p>4. 研究科教務委員会委員としての活動</p> <p>5. 情報メディアセンター委員会委員としての活動</p> <p>6. 第28回聖路加看護学会学術大会企画委員としての活動</p> <p>7. 日本看護学会学術集会抄録選考委員としての活動</p> <p>8. 紀要査読委員としての活動</p>	<p>令和4年4月～ 現在に至る</p> <p>令和4年4月～ 現在に至る</p> <p>令和4年4月～ 現在に至る</p> <p>令和4年4月～ 現在に至る</p> <p>令和4年4月～ 現在に至る</p> <p>令和4年4月～ 現在に至る</p> <p>令和4年3月～ 令和4年11月</p> <p>令和2年10月～ 現在に至る</p>	<p>常磐大学の入試委員会委員として、入試の選考方法や評価方法、看護学部の入試担当割当、実施計画等の運用に関わっている。</p> <p>常磐大学看護学部の教務委員会委員として、学生の履修相談や単位取得状況の確認、さらに学外非常勤講師との連絡・調整、実習に係るインシデント・アクシデントの取りまとめ等を行っている。</p> <p>常磐大学大学院看護学研究科の入試実施・広報委員会委員として、入試の選考方法や評価方法、入学前社会人学び直し研修の企画、オープンキャンパスでの広報活動等に関わっている。</p> <p>常磐大学大学院看護学研究科の教務委員会委員として、入学ガイダンスの運営、CNS教育課程の申請準備等に関わっている。</p> <p>常磐大学大学院の情報メディアセンター委員会委員として、看護学研究科におけるICTを活用したオンライン学習や教育環境、授業設計等について検討し、整備している。</p> <p>聖路加看護学会学術大会の企画委員として、広報・情報システムの運営に関わっている。</p> <p>日本看護学会学術集会の抄録選考委員として、精神看護分野の抄録選考を行っている。</p> <p>常磐大学が発行している常磐看護学研究雑誌の査読者として、投稿論文の査読を行っている。査読を行うにあたり、建設的、教育的な視点に留意し、投稿者の研究が看護の発展に寄与できるようコメントしている。</p>

9. ICTサポートメンバーとしての活動	令和2年4月～ 令和4年3月	常磐大学看護学部のICTサポート代表メンバーとして、看護教員や学生、非常勤講師へのICTツールの活用や遠隔授業のサポートを行った。学生に対しては自宅等のネットワーク環境を確認し、e-Learning上での動画の視聴、課題レポートの提出、テストの受講等の解説資料・動画を独自に作成しサポートした。教員に対してはICTツールを活用した授業例を作成・提示し、教員のニーズに応じた授業方法に対応できるようサポートした。
10. 図書委員会委員としての活動	令和2年4月～ 令和4年3月	常磐大学看護学部の図書委員会代表委員として、見和キャンパス・桜の郷キャンパスにおける資料（図書、視聴覚教材、雑誌等）の選定と取りまとめを行った。教員に限らず、学生のニーズを調査し、図書館の資料を充実させ効果的な学習環境が整うようにした。
11. 入学試験問題検討委員会委員としての活動	令和元年4月～ 令和2年3月	常磐大学の入学試験問題検討委員会委員として、入学試験問題の出題内容や設問・配点等の検討を行った。
12. 病院研究支援WGメンバーとしての活動	平成30年4月～ 現在に至る	常磐大学看護学部の病院研究支援WGの代表メンバーとして、県内2施設の研究支援の研修計画及び調整、看護師への指導を行っている。
13. 全学情報教育委員会委員としての活動	平成30年4月～ 令和4年3月	常磐大学の全学情報教育委員会委員として、看護学部におけるICTを活用したオンライン学習や教育環境、授業設計等について検討した。他学部の委員と学内の情報教育について共有し、学生や教職員の情報リテラシーを高めるために、オンライン授業の作成や受講方法等について検討し、随時、フィードバックした。
14. 情報メディアセンター委員会委員としての活動	平成30年4月～ 令和4年3月	常磐大学の情報メディアセンター委員会委員として、看護学部における医学・看護・健康保健分野の映像コンテンツの選定や図書、電子テキスト、資料の整備、教材開発等について検討し、整備した。
15. 動物実験倫理委員会委員としての活動	平成30年4月～ 令和2年3月	常磐大学の動物実験倫理委員会委員として、年間5件程度の倫理審査申請書の審査と学内倫理講習会の検討を行った。
16. 看護教員対象の研究FDの活動	平成30年4月～ 令和4年3月	常磐大学看護学部FDにおいて、助教の看護教員を対象に研究方法や国内・国際学会発表、論文の書き方について講義と演習を行った。また学会発表の報告会を企画し建設的なディスカッションを行った。研修アンケートから「研究手法が自身の研究に参考になった」「今後の研究に活かして行きたい」等、高い評価と満足度が得られた。
17. 高校生への模擬授業	平成30年4月～ 現在に至る	茨城県内高校や常磐大学で企画したプレナース1日体験において、大学で看護学を学ぶ意義や看護学部の特徴、看護師の仕事について説明し、高校生からのニーズが高い「こころ」に関連した看護の講義を行っている。高校生から「実際の講義を聴くことで看護師になりたいという思いが強くなった」等、意見や感想が得られている。

18. 広報委員会委員としての活動	平成30年4月～ 令和2年3月	常磐大学看護学部の広報委員として、オープンキャンパスの運営やホームページの内容等について検討を行った。ホームページについては、情報の受け手（受験生やその保護者、在学生等）の視点から必要な情報を分かりやすく具体的に視覚化し、看護学部の特徴や本学で看護学を学ぶ意義について明確になるように情報を整理した。
19. 研究倫理審査委員会委員としての活動	平成28年4月～ 平成30年3月	筑波大学附属病院臨床研究倫理審査委員会及び医学医療系医の倫理委員会の委員として、倫理申請書及び研究計画の審査、相談に関わった。
20. 看護師特定行為研修委員会委員としての活動	平成28年4月～ 平成30年3月	筑波大学附属病院看護師特定行為研修特別委員会委員として、当該施設の指定研修機関の設置及び登録、特定行為研修責任者（精神及び神経症状に係る薬剤投与関連、創傷管理関連、皮膚損傷に係る薬剤投与関連、感染に係る薬剤投与関連）として関わった。
21. 筑波大学附属病院TEAMS-BIファシリテーター	平成28年3月～ 現在に至る	筑波大学附属病院で開発されたノンテクニカルスキルの研修プログラムのTEAMS-BI (Training for Effective & efficient Action in Medical Service-Better Instruction) のファシリテーターとして、医療者を対象に、正確・安全・良心的に医療・看護技術を教えるための合理的な手法を教えている。研修では講義とシミュレーション、ロールプレイを実践する。常磐大学看護学部の担当授業科目「医療問題解決方法」の授業にも研修内容を取り入れている。
22. 日本精神保健看護学会第25回学術集会実行委員	平成27年6月	日本精神保健看護学会の学術集会実行委員として、学術集会の運営に関わった。
23. 日本看護学会論文選考委員（看護教育）	平成25年11月～ 平成27年10月	日本看護学会の論文選考委員として、看護教育分野の査読を年間5件程度行った。
(担当実績)		
1. 筑波大学附属病院精神科リエゾンチーム	平成29年4月～ 平成30年3月	筑波大学附属病院の精神科リエゾンチーム加算の施設基準に該当する看護師としてチームに加入し、精神科医や精神保健福祉士、作業療法士、臨床心理士、栄養士等の多職種と活動を行った。主に一般病棟に入院中のせん妄や認知症、抑うつを有する患者、自殺企図で入院した患者、手術を受ける精神疾患患者、精神疾患を有する妊産婦等への対応に関わった。 (専門看護師の資格は未受験)
2. 茨城県神栖市－筑波大共同プロジェクト CPR-AEDインストラクター	平成28年2月～ 平成30年3月	自殺・未遂者への対応とその家族への支援に関わるリエゾン精神看護の重要な役割として、筑波大学附属病院のCPR-AEDインストラクターを志願し活動した。活動内容として県内小中学校の教員を対象にCPR-AEDの意義を説明し、生徒や地域住民の蘇生率の向上、不慮の事故の防止、緊急時の対応・メンタルヘルス支援に関わるシミュレーション教育や意見交換を行った。
3. 筑波大学（学士課程）CPR-AEDインストラクター	平成27年12月	筑波大学附属病院のCPR-AEDインストラクターとして、筑波大学の学生を対象としたCPR-AEDのシミュレーション教育に関わった。

<p>4. 筑波大学医学群臨床看護准教授</p> <p>5. 筑波大学附属病院新人看護師及びジェネラリスト教育担当者</p>	<p>平成25年4月～平成30年3月</p> <p>平成23年4月～平成30年3月</p>	<p>筑波大学医学群の審査を受け、臨床での看護教育の指導体制の充実を図り臨床教育に協力する優れた医療者として左記の称号が付与された。職務として、筑波大学附属病院における実習指導、医学群における非常勤講師を務めた。</p> <p>筑波大学附属病院で勤務していた精神神経科病棟において、新人看護師及び2年目以上の看護師の指導に従事した。特に、当該病棟の特徴をふまえたクリニカルラダーを作成し、看護師の指導、教育、研修会の企画・実施、研究指導に関わった。</p>
<p>4 その他 (競争的資金等の獲得状況)</p> <p>1. 文部科学省科学研究費助成事業 (基盤研究(C))</p> <p>2. 文部科学省科学研究費助成事業 (若手研究)</p> <p>3. 常磐大学課題研究助成</p> <p>4. 常磐大学課題研究助成</p> <p>5. 常磐大学課題研究助成</p>	<p>令和5年4月～令和9年3月</p> <p>令和元年4月～令和5年3月</p> <p>平成30年4月～令和3年3月</p> <p>平成30年4月～令和3年3月</p> <p>平成30年4月～令和3年3月</p>	<p>研究課題「軽度認知障害のワーキングメモリを活性化し実行機能を高める看護介入プログラムの開発」について研究助成 (4,810千円) を受けている。本研究では軽度認知障害者の脳機能の特徴をふまえ、ワーキングメモリを活性化し実行機能を高める複合的な看護介入プログラムを開発し、効果を検証することを目的としている。 研究者：福田大祐 (研究代表者)、池内彰子、森千鶴 担当部分：研究の統括</p> <p>研究課題「慢性期統合失調症者の実行機能を高める看護介入プログラムの開発と検証」について研究助成 (1,820千円) を受けている。本研究では慢性期統合失調症者の実行機能を高める看護介入プログラムを開発することを目的としている。</p> <p>研究課題「慢性期統合失調症者の実行機能障害と手段的ADLとの関連性の検討」について研究助成 (442千円) を受けた。本研究では慢性期統合失調症者の実行機能障害の特徴と手段的ADLとの関連性を明らかにすることを目的とした。 研究者：福田大祐 (研究代表者)、池内彰子、森千鶴 担当部分：研究計画、データ収集・データ分析、論文執筆等の研究の統括に関わった。</p> <p>研究課題「茨城県における在宅精神疾患療養者と家族のケアニーズと訪問看護サービスの実態」について研究助成 (481千円) を受けた。本研究では茨城県において精神疾患療養者と家族への地域生活支援として主要な役割を果たしている精神科訪問サービスの現状を明確にすることを目的とした。 研究者：池内彰子 (研究代表者)、福田大祐、長谷川陽子 担当部分：調査及び分析に関わった。</p> <p>研究課題「看護実践に必要な考える力を養う教育の検討」について研究助成 (480千円) を受けた。本研究では看護学生が看護実践に必要な考える力を養うための教育方法を検討することを目的とした。 研究者：沼口知恵子 (研究代表者)、前田和子、細矢智子、福田大祐、他8名 担当部分：教育方法の検討、調査及び分析に関わった。</p>

6. 常磐大学課題研究助成

(共同研究)

1. 慢性期統合失調症者の実行機能を高める看護介入プログラムの開発について

平成30年4月～
令和3年3月

研究課題「地域包括ケアシステムを活用した看護基礎教育の充実」について研究助成(2,997千円)を受けた。本研究では地域包括ケアシステムのキーパーソンとして貢献できる看護職の育成を図るための効果的な看護基礎教育方法を構築し充実させることを目的とした。
研究者：市川定子(研究代表者)、村井文江、前田和子、福田大祐、他6名
担当部分：教育方法の検討、調査及び分析に関わった。

令和元年4月～
現在に至る

県内精神科病院と共同し、現在調査を行っている。本研究では自身が開発した軽度認知障害・初期認知症者の実行機能を高める介入プログラムの研究成果を慢性期統合失調症者に応用し、非ランダム化比較試験にて効果を検証する。その成果により慢性期統合失調症者の脳機能と地域生活支援に着目した新たな看護介入の臨床的応用を検討する。研究成果を国際学会 25th East Asia Forum of Nursing Scholars Conference(2022)にて公表した。
研究者：福田大祐(研究代表者)、森千鶴
担当部分：研究の統括に関わっている。

2. 精神科看護職者の看護実践能力評価尺度の作成について

令和元年4月～
令和4年3月

筑波大学医学医療系の教員と共同し質問紙調査を行った。精神看護実践に関わる看護師の教育や看護理論、根拠に基づいた看護ケア、安全管理、地域包括ケア、リエゾン精神看護、多職種連携、メンタルヘルス支援等の多様な場面において活用可能な尺度を検討した。探索的因子分析の結果、37項目、5因子からなる尺度を作成した。研究成果は国際学会 32th International Nursing Research Congress, Sigma Theta Tau International(2021)及び日本精神保健看護学会誌(2021)にて公表した。
研究者：福田大祐(研究代表者)、森千鶴
担当部分：研究の統括に関わった。

3. 慢性期統合失調症者の実行機能障害と手段的ADLとの関連性の検討について

平成30年4月～
令和4年3月

県内精神科病院と共同し調査を行った。本研究は科学研究費助成事業(若手研究)につながる実態調査として貴重な成果を得た。研究成果は国際学会 30th International Nursing Research Congress, Sigma Theta Tau International(2019)及び英文雑誌 International Medical Journal(2020)にて公表した。
研究者：福田大祐(研究代表者)、池内彰子、森千鶴
担当部分：研究の統括に関わっている。

4. 看護師特定行為研修の臨地実習における効果的な指導内容に関する予備的調査について

平成30年4月～
現在に至る

共同研究者として県内大学附属病院の看護師と現在調査を行っている。研究では看護師特定行為研修における高度な看護実践やチーム医療、医療安全、職種間の連携・調整等に関する指導者の効果的な指導内容を明らかにする。また、共同研究者への研究指導も行っている。研究成果は、第41回日本看護科学学会学術集会(2021)等にて発表した。
研究者：楠見由里子(研究代表者)、根本享子、石塚孝子、梶山陽子、福田大祐
担当部分：研究計画、質問紙作成、データ分析に関わっている。

(開発等)		
1. 看護師特定行為研修の区分別科目実習における看護実践自己評価票の作成	令和4年12月	看護師特定行為研修の区分別科目実習における看護実践自己評価票を作成した。研究成果は英文雑誌 Japanese Journal of Nursing and Health Sciences (2022) にて公表した。
2. 慢性期統合失調症者の実行機能を高める看護介入プログラムの開発	令和4年4月	慢性期統合失調症者の実行機能を高める看護介入プログラムを開発した。研究成果は国際学会25th East Asia Forum of Nursing Scholars Conference(2022) にて公表した。
3. 精神科看護職者の看護実践能力評価尺度の作成	令和3年3月	精神科看護職者の看護実践能力を評価する尺度を作成した。研究成果は国際学会 32th International Nursing Research Congress, Sigma Theta Tau International(2021)及び日本精神保健看護学会誌(2021)にて公表した。
4. 臨地実習指導者の効果的な教育行動評価尺度(ECTB)短縮版の作成	令和元年12月	看護学実習における臨地実習指導者の指導内容を評価する臨床教育行動評価尺度(ECTB)短縮版を作成した。研究成果は国際学会 29th International Nursing Research Congress, Sigma Theta Tau International(2018)及び英文雑誌 International Medical Journal(2019)にて公表した。
5. 軽度認知障害・初期認知症者の実行機能を高める看護介入プログラムの開発	平成27年3月	軽度認知障害・初期認知症者の実行機能を高める看護介入プログラムを開発した。研究成果は国際学会 American Psychiatric Nurses Association 29th Annual Conference(2015)及び英文雑誌 Rehabilitation Nursing(2019)にて公表した。本雑誌の被引用数は6回(2022年5月現在)。
6. 看護職者を対象とした日本語版アルコールに関連した問題のある患者に対する態度尺度(AAPPQ)の開発	平成27年3月	アルコールに関連した問題のある患者に対する態度尺度(AAPPQ)日本語版を作成した。研究成果は国際学会 Tsukuba Global Science Week(2013)及び応用心理学研究(2015)にて公表した。本雑誌の被引用数は2回(2021年2月現在)。
(臨床経験)		
1. 筑波大学附属病院精神神経科病棟副看護師長	平成28年4月～平成30年3月	筑波大学附属病院で勤務していた精神神経科病棟において、病棟管理者として看護職員の教育、研究の指導に従事した。教育では新人教育・継続教育、実習指導方法、クリニカルリーダーに沿ったキャリアアップ支援、またリーダー役割や多職種・他部署との連携、調整、さらに倫理的な問題への対処について指導した。研究では量的研究や質的研究の手法を用いて、研究で得た知見が実際の看護実践や看護の質改善につながるよう指導した。
2. 筑波大学附属病院精神神経科病棟看護師	平成21年9月～平成30年3月	筑波大学附属病院で勤務していた精神神経科病棟において、急性期または慢性期にある統合失調症、気分障害、軽度認知障害・認知症、摂食障害の患者、身体疾患の合併や周手術期、周産期にある精神疾患患者の看護、救急外来や一般病棟に入院中の患者のリエゾン精神看護の業務に従事した。

3. 筑波大学附属病院HCU (high care unit) 病棟看護師	平成21年4月～同年8月	筑波大学附属病院で勤務していたHCU病棟において、呼吸器管理や継続的な輸液管理が必要な周手術期にある身体疾患患者または精神疾患患者、自殺企図にて身体管理が必要な患者の看護業務に従事した。
4. 社会医療法人公徳会佐藤病院精神科救急病棟看護師	平成18年4月～平成21年3月	公徳会佐藤病院で勤務していた精神科救急病棟において、精神保健医療福祉チームと協働し自傷他害の危険性や強い急性期症状のある統合失調症・気分障害、認知症の患者、措置入院の患者対応、精神科救急外来の看護業務に従事した。
5. 社会医療法人公徳会佐藤病院精神科急性期病棟看護師	平成17年4月～平成18年3月	公徳会佐藤病院で勤務していた精神科急性期病棟において、主に急性期にある統合失調症や気分障害、認知症の患者の看護業務に従事した。
(表彰) 1. 筑波大学附属病院より感謝状	平成30年3月	筑波大学附属病院初期臨床研修においてACLS (二次救命処置) 修了試験に講師として参加し、多くの実践的スキルを教授したとの理由から研修管理委員会より感謝状が授与された。

研 究 業 績 等 に 関 する 事 項

著書, 学術論文等の名称	単著・共著の別	発行又は発表の年月	発行所, 発表雑誌等又は発表学会等の名称	概 要
(著書) 1. 応用心理学ハンドブック	共	令和4年9月	福村出版	第9章飲酒行動と健康において、飲酒と健康に関わる歴史と現状、最新の研究動向について整理した。また、国内の飲酒行動と健康に関する現状や取り組みをもとに、今後の課題と展望について解説した。 担当部分：pp. 442-443「第9章 (11) 飲酒行動と健康」(単著) 編集：応用心理学ハンドブック編集委員会 共著者(第9章)：木村友昭, 角野善司, 余語真夫, 木島恒一, 福田大祐, 他16名
2. 改訂版これからの精神看護学 病態生理をふまえた看護実践のための関連図	共	平成28年12月	PILAR PRESS	第4章精神看護の実践において、認知症の理解と看護について解説した。改訂版として認知症疾患の最新の疫学や病態生理、治療、薬物療法を整理した。認知症の診断基準にある認知機能(注意や実行機能、記憶等)の障害と日常生活における生活障害との関連を図示し、アルツハイマー病者の症例の看護展開を解説した。 担当部分：pp. 317-331「第4章 (9) 認知症の理解と看護」(単著) 編集：森千鶴, 田中留伊 共著者：阿達瞳, 阿部由香, 石崎実, 福田大祐, 他29名
3. Morrison J (2014) : DSM-5 Made Easy: The Clinician's Guide to Diagnosis / 精神科診断戦略: モリソン先生のDSM-5徹底攻略 case130	共	平成28年5月	医学書院	第3章気分障害において、双極I型障害の翻訳部分を担当した。2013年に米国精神医学会によって改定されたDSM-5をもとに、双極I型障害の症例を示しながら診断過程を解説した。診断のポイントとして鑑別診断(薬物使用, 身体疾患等)について言及し、周産期に発症した症例と学業の問題が誘因となった症例を提示した。 担当部分：pp. 119-124「第3章 気分障害」(単著) 監訳：松崎朝樹 共著者：石井朝子, 石井敬, 稲川拓磨, 福田大祐, 他42名

4. これからの精神看護学 病態生理をふまえた看護実践のための関連図	共	平成27年5月	PILAR PRESS	<p>第4章精神看護の実践において、認知症の理解と看護について解説した。根拠のある看護を提供するため、精神医学やDSM-5（精神疾患の診断・統計マニュアル第5版）の最新の知見に基づいて認知症の病態生理をふまえ、必要な理論や評価、看護援助の意義がわかるように図示した。診断基準の認知機能（注意や実行機能、記憶等）の障害に伴い日常生活に現れやすい症状を提示し、アルツハイマー病の症例を解説した。さらに関連図を用いて看護援助のポイントを説明した。</p> <p>担当部分：pp. 313-327「第4章（9）認知症の理解と看護」（単著）</p> <p>編集：森千鶴，田中留伊</p> <p>共著者：阿達瞳，阿部由香，石崎実，<u>福田大祐</u>，他29名</p>
<p>(学術論文)</p> <p>1 学位論文</p> <p>1. 初期認知症者の実行機能を高める看護介入プログラムの開発</p>	単	平成27年3月	筑波大学大学院人間総合科学研究科看護科学専攻 博士学位論文	<p>初期認知症の病態の特徴から日常生活に影響を与える要因として実行機能障害に着目した看護介入プログラムを開発した。第1段階では35名を対象にBADS（遂行機能障害候群の行動評価）を用いて実行機能障害の特徴を分析し、プランニングや柔軟性の障害が特徴として認められた。第2段階では高次脳機能障害への訓練モデルと理論をもとに実行機能を高める看護介入プログラムを作成し、実施及び評価を行った。10名を対象に介入を行い介入前後におけるBADSに改善が認められプログラムの活用可能性が示唆された。</p>
2. うつ病の身体症状を指標としたクリニカルパスを開発するための基礎的検討	単	平成21年3月	山形大学大学院医学系研究科看護学専攻 修士学位論文	<p>入院うつ病患者10名を対象に、身体症状を指標としたクリニカルパスを開発するための基礎的検討を行った。身体症状（睡眠時間・睡眠状態，食事摂取量，体重，疲労感，他6項目）は精神症状（GAF，CGI，SDS）と有意に相関し身体症状の改善が回復の指標となること，social stressの影響がない場合には2週間程度で退院が可能であることが明らかとなった。うつ病の身体症状を客観的指標とした看護判断によりクリニカルパスを作成し，効率的なチーム医療の実践に活用可能であることが示唆された。</p>
<p>2 学術雑誌</p> <p>18. A pilot study to develop a nursing practice self-evaluation scale: subject practice through categorization of specified medical acts (査読付)</p>	共	令和4年12月	Japanese Journal of Nursing and Health Sciences, 20巻2号, pp. 47-53	<p>特定行為研修の区分別科目実習における看護実践自己評価票を試作し，その妥当性と信頼性を検討した。因子分析により生成された3因子の構成概念は，文献的統合により抽出した要素を基盤に説明することができ妥当性が確保されていると判断した。信頼性を示すα係数は尺度全体と下位因子において0.7以上であり内的整合性は保たれていると考えられた。</p> <p>共著者：Fukuta D, Nemoto K, Suzuki J, Ishitsuka T.</p> <p>担当部分：研究計画，データ分析に関わり，論文を執筆した。</p>

17. 精神科看護職者の看護実践能力評価尺度の作成（査読付）	共	令和3年6月	日本精神保健看護学会誌, 30巻1号, pp. 1-11	精神科看護職者の看護実践能力を評価する尺度を作成し信頼性と妥当性を検討した。文献的統合により53項目の原案を作成し、看護職者206名を対象に質問紙調査を実施した。探索的因子分析により尺度は計37項目となり、第1因子「患者－看護師関係を形成する力」、第2因子「専門知識を活用する力」、第3因子「患者の主体性を引き出す力」、第4因子「安全なケアを意識する力」、第5因子「自己研鑽を続ける力」が抽出された。本尺度の信頼性と妥当性が確認され、看護職者の自己評価や教育への活用可能性が示唆された。 共著者：福田大祐, 森千鶴 担当部分：研究計画, 質問紙作成, データ収集・データ分析に関わり, 論文を執筆した。
16. Characteristics of executive dysfunction in outpatients with chronic schizophrenia in daily behavior: a preliminary report (慢性期統合失調症者の日常生活行動における実行機能障害の特徴)（査読付）	共	令和2年8月	International Medical Journal, 27巻4号, pp. 382-385	慢性期統合失調症者の病態の特徴から日常生活行動における実行機能障害について、外来へ通院中の患者8名を対象にBADSを用いて評価・検討した。実行機能障害の特徴として、プランニングと柔軟性の能力の低下が患者の日常生活行動に影響を与えていることが明らかとなった。さらに、実行機能障害は再発や再燃に影響する服薬アドヒアランスの低下に関連することが示唆された。 共著者：D. Fukuta, S. Ikeuchi, C. Mori 担当部分：研究計画, データ収集・データ分析に関わり, 論文を執筆した。
15. 慢性期統合失調症者の実行機能障害の特徴と関連要因（査読付）	共	令和2年3月	常磐看護学研究雑誌, 2巻, pp. 3-10	慢性期統合失調症者の実行機能障害の特徴とその関連要因を明らかにするために、8名を対象に調査を行った。実行機能評価BADSを用いて入院回数、クロルプロマジン換算、BPRSとの関連性を分析した。実行機能障害の特徴として、再発や再入院、陰性症状、抗精神病薬の種類・量により障害が現れやすくなることが考えられた。看護師は実行機能の特徴を理解して、日常生活援助を実践していくことが重要であると示唆された。 共著者：福田大祐, 池内彰子, 森千鶴 担当部分：研究計画, データ収集・データ分析に関わり, 論文を執筆した。
14. 茨城県における精神疾患を有する在宅療養者への訪問看護の現状と訪問看護事業所管理者の困難感（査読付）	共	令和2年3月	常磐看護学研究雑誌, 2巻, pp. 41-50	精神疾患療養者への訪問看護の現状と管理者の困難感について調査を行った。訪問看護事業所101施設の管理者を対象に質問紙調査を実施した。訪問看護の実情として、訪問看護師の71.4%が精神科病棟での臨床経験がないことが明らかとなった。また、利用者である精神疾患療養者の多くは中高年者であり、身体疾患を併発していることも多いため身体面の支援を継続的に必要としていた。 共著者：池内彰子, 福田大祐, 長谷川陽子 担当部分：研究方法の検討, 論文校正に関わった。

<p>13. Developing a Short Form of the Japanese Version of a Scale Assessing Clinical Nursing Instructors' Effective Clinical Teaching Behaviors (看護学実習における臨地実習指導者の効果的な教育行動評価尺度短縮版の作成) (査読付)</p>	共	令和元年12月	International Medical Journal, 26巻6号, pp. 501-504	看護学実習における臨地実習指導者の指導内容を評価するECTB(臨床教育行動評価尺度)短縮版の有用性を検証した。看護学生784名を対象に質問紙調査を実施した。探索的因子分析により尺度は計14項目となり、構成概念として「学習経験の促進」「学習意欲の向上」が抽出された。本尺度の信頼性と妥当性が示され、臨地実習指導者の効果的な指導を支援するための臨床教育や研修に活用可能であることが示唆された。 共著者：D. Fukuta, T. Ishitsuka, J. Suzuki, C. Mori 担当部分：研究計画、質問紙作成、データ収集・データ分析に関わり、論文を執筆した。
<p>12. Intervention program to improve executive functions and enhance planning abilities of patients with mild neurocognitive disorder (軽度認知障害者の実行機能とプランニング能力を高める介入プログラムの効果) (査読付)</p>	共	令和元年9月	Rehabilitation Nursing, 44巻5号, pp. 263-270	軽度認知障害者の実行機能とプランニング能力を高める看護介入プログラムの効果を検証した。10名を対象に、Lezakの実行機能の概念と自己教示訓練、問題解決訓練、特定課題ルーチン訓練の理論を応用したプログラムを作成し、介入を行った。プログラムの評価に実行機能評価BADsと手段的ADL評価尺度、また日常生活への自信(VAS)を用いた。介入前後におけるこれらの指標得点に改善が認められ、プログラムの効果が確認された。 共著者：D. Fukuta, C. Mori 担当部分：研究計画、看護介入、データ収集・データ分析に関わり、論文を執筆した。
<p>11. Caregivers' evaluation of an intervention program to improve executive functions of patients with mild neurocognitive disorder in Japan (軽度認知障害者の実行機能を高める介入プログラムの家族による評価) (査読付)</p>	共	平成30年10月	Nursing and Family Health Care (Nursing and Palliative Care), 1巻1号, pp. 1-5	軽度認知障害者の実行機能を高める看護介入プログラムの効果を検証するために、患者の家族・介護者による評価を検証した。患者を介入群10名、対照群10名に設定した。介入前後における患者の実行機能評価としてDEX(遂行機能障害質問表)を用い、非ランダム化比較試験を実施した。介入群では介入後の家族・介護者の評価に改善を認め、軽度認知障害者の日常生活援助を行ううえで有用な指標になることが明らかとなった。 共著者：D. Fukuta, C. Mori 担当部分：研究計画、データ収集・データ分析に関わり、論文を執筆した。
<p>10. Non-technical skills training and patient safety in undergraduate nursing education: A systematic review (看護基礎教育におけるノンテクニカルスキルトレーニングと患者安全に関するシステムティックレビュー) (査読付)</p>	共	平成30年6月	Teaching and Learning in Nursing, 13巻4号, pp. 233-239	看護基礎教育において患者安全を高めるノンテクニカルスキル教育のエビデンスを明らかにするため、文献730件の中から8件(国外7件、国内1件)を選定しシステムティックレビューを行った。ノンテクニカルスキルは「コミュニケーション」「状況認識」「チームワーク」「意思決定」「リーダーシップ」に統合された。シミュレーション教育を活用することでスキルや批判的思考、臨床推論の能力の向上に有用であることが示唆された。 共著者：D. Fukuta, M. Iitsuka 担当部分：研究計画、データ収集・データ分析に関わり、論文を執筆した。

9. Executive Dysfunction and Instrumental Activities of Daily Living in Mild Neurocognitive Disorder in Japan: A Preliminary Study (軽度認知障害者の実行機能障害と手段的ADLの関連性の検討) (査読付)	共	平成30年4月	International Medical Journal, 25巻2号, pp. 86-89	軽度認知障害者の認知機能障害と生活障害との関連性について、32名（アルツハイマー病19名、レビー小体型認知症13名）を対象に実行機能評価BADsと手段的ADL評価尺度を用いて検討した。実行機能障害と手段的ADLの低下に関連性を認め、プランニング能力の低下が患者の日常生活の遂行に影響を与えていることが明らかとなった。レビー小体型認知症は初期段階において実行機能障害が現れやすく、発症早期から日常生活に障害を認めることが示唆された。 共著者：D. Fukuta, C. Mori 担当部分：研究計画，データ収集・データ分析に関わり，論文を執筆した。
8. 看護教育における現象学的研究の文献レビュー (査読付)	共	平成30年3月	順天堂保健看護研究, 6巻, pp. 26-33	国内外の看護教育における現象学的研究を概観し、看護教育への活用可能性を検討した。2012年～2016年の5年間の文献検索を行った。対象文献は計25件（国内7件、国外18件）であった。看護教育分野別に文献を統合したところ「学生理解」「臨地実習指導」「教育プログラム」「教授方略」「倫理教育」「大学院教育」の6つに分類された。今後は看護教育における教育プログラムや教授方法、大学院教育での現象学的研究の活用が求められることが示唆された。 共著者：飯塚麻紀，榎本佳子，福田大祐 担当部分：データ分析及び論文校正に関わった。
7. 軽度認知障害者の実行機能と注意機能の特徴と関連性 (査読付)	共	平成29年12月	看護教育研究学会誌, 9巻2号, pp. 3-12	軽度認知障害者の実行機能と注意機能の特徴とその関連性を明らかにするため、32名（アルツハイマー病19名、レビー小体型認知症13名）を対象に実行機能評価BADsと注意機能評価TMTを用いて調査を行った。全体的な実行機能とプランニング能力に低下が認められた。レビー小体型認知症は、複数の作業課題の遂行に必要な実行機能の低下が明らかとなった。早期の段階から認知機能に働きかける看護介入が必要であると考えられた。 共著者：福田大祐，森千鶴 担当部分：研究計画，データ収集・データ分析に関わり，論文を執筆した。
6. 看護職者を対象とした「アルコールに関連した問題のある患者に対する態度尺度」日本語版The Alcohol and Alcohol Problems Perception Questionnaire (AAPPQ) の有効性の検証 (査読付)	共	平成27年3月	応用心理学研究, 40巻3号, pp. 167-176	アルコールに関連した問題のある患者に対する態度尺度 (AAPPQ) の日本語版の有効性を検証した。看護職者886名を対象に質問紙調査を実施した。探索的因子分析により尺度の構成概念として「看護の自信」「同僚のサポート」「看護への興味・関心」「役割に伴う自尊心」「対応困難」が抽出された。また、本尺度の信頼性と妥当性が示され、看護師の新人・継続教育やメンタルヘルス支援に有用になると考えられた。 共著者：福田大祐，森千鶴 担当部分：研究計画，AAPPQの翻訳及び質問紙作成，データ収集・データ分析に関わり，論文を執筆した。

5. 看護師の役割受容および共感性と親の飲酒問題との関連 (査読付)	共	平成25年4月	日本看護学会論文集：看護管理, 43号, pp. 475-478	看護師の役割受容及び共感性とその親の飲酒問題との関連性を検討するため、看護師72名を対象に質問紙調査を実施した。質問紙は役割受容尺度、多次元共感測定尺度、CAST (Children of Alcoholics Screening Test) 日本語版を用いた。親に飲酒問題の可能性のある看護師は、親の飲酒問題が自身の対人関係に影響を与え、自己犠牲的な行動につながりやすいことが推察された。共著者：福田大祐, 小原梨那, 篠崎まゆみ, 森千鶴 担当部分：研究計画, 質問紙作成, データ収集・データ分析に関わり, 論文を執筆した。
4. 脳波上基礎律動が消失したレビー小体型認知症末期患者への援助効果 (査読付)	共	平成23年12月	日本精神科看護学会誌, 54巻3号, pp. 133-137	遷延性意識障害のあるレビー小体型認知症の末期患者1例について、ターミナルケアの観点からPerson-Centered-Care (PCC) の看護援助を実践し評価した。看護介入はPCCの概念をもとに、ADLの回復を目的とした音楽療法, 回想法の非薬物療法を行った。徐々に発語が増加し、数歩の歩行が可能となった。「その人らしさ」に着目した看護援助により、精神機能と身体機能の回復を促す効果が示唆された。共著者：福田大祐, 岡村志津英, 関紀枝子 担当部分：研究計画, 看護介入, データ収集・データ分析に関わり, 論文を執筆した。
3. うつ病性障害の身体症状を回復の指標とした看護判断の検討 (査読付)	単	平成23年1月	日本精神保健看護学会誌, 19巻2号, pp. 1-9	うつ病患者10名を対象に身体症状を回復の指標とした退院支援を行う基準を検討し、身体症状を評価する看護判断と医師による退院許可の判断を比較した。回復過程における身体症状と精神症状には有意な相関が認められ、身体症状を基準とした回復の判断は退院の時期を適切に評価することが可能であると示唆された。入院うつ病者の身体症状を基準とした看護援助は退院支援を行うためのクリニカルパスの作成に有用であると考えられた。
2. 攻撃行動を繰り返し行動制限を必要とした青年期自閉症患者の一例 (査読付)	単	平成20年6月	日本精神科看護学会誌, 51巻1号, pp. 110-111	他者への暴力行為を繰り返し行動制限を必要とした青年期自閉症患者1例への対応について相談を受け、リエゾン精神看護の視点から研究者が行動療法の介入を提案し、攻撃行動が改善された経過を振り返った。行動療法では暴力行為を抑制できた場合には行動制限を緩和する報酬 (トークンエコノミー法) を行った。日々の日課として作業療法を導入し、行動化に至る要因を受容、共感することで攻撃行動は改善された。
1. 心理的虐待を受けた患者の行動化に至る心の機序を理解するまで (査読付)	共	平成18年12月	日本精神科看護学会誌, 49巻2号, pp. 26-30	幼児期から両親に心理的虐待を受け自殺企図を繰り返した特定不能な精神障がい者1例について、患者と看護師の日記を通じた看護援助を振り返り行動化に至る心の機序を分析した。心理的虐待により言語化が困難な患者とのコミュニケーション方法として日記を用いたことで、患者に情緒的な安らぎをもたせ心理的な問題をコントロールする方法を得る機会となった。また、情緒への同調が行えたことにより、自己価値が高まったことが示唆された。共著者：鈴木砂由里, 岸泉, 福田大祐 担当部分：研究計画, データ分析に関わった。

<p>(その他)</p> <p>1 国際学会発表</p> <p>9. Patients' evaluation of a nursing intervention program for improving executive functions in chronic schizophrenia</p>	-	令和5年3月	26th East Asia Forum of Nursing Scholars Conference (東京・オンライン開催)	<p>慢性期統合失調症者の自己評価による実行機能を改善するための介入プログラムの効果を検討した。介入プログラムの前後において患者は実行機能の改善を自己評価することができていた。一方、計画立案と問題解決能力の向上に関する自己認識が低かった。今後は患者が実行機能の変化を適切に自己評価できるようにする介入プログラムの確立が必要である。</p> <p>共著者：Fukuta D, Ikeuchi S, Mori C 担当部分：研究計画，データ収集・データ分析に関わり，ポスター発表を行った。</p>
<p>8. Effects of an intervention program to improve the executive functions of patients with chronic schizophrenia</p>	-	令和4年4月	25th East Asia Forum of Nursing Scholars Conference (オンライン開催)	<p>慢性期統合失調症者の実行機能を高める介入プログラムの効果を検証した。本介入プログラムは、慢性期統合失調症者の実行機能（プランニング能力）と日常活動の改善を促した。実行機能障害のプランニングへのプロセスとして、患者の日常生活と関連した問題に焦点をあてる必要がある。我々の調査結果により、慢性期統合失調症者の生活の質を高める介入プログラムとして実現可能性が検証された。</p> <p>共著者：Fukuta D, Ikeuchi S, Takita H, Mori C 担当部分：研究計画，データ収集・データ分析に関わり，ポスター発表を行った。</p>
<p>7. Effects of an intervention program to improve the executive functions of patients with chronic schizophrenia (慢性期統合失調症者の実行機能を高める介入プログラムの効果)</p>	-	令和4年4月	25th East Asia Forum of Nursing Scholars Conference (台湾・オンライン開催)	<p>慢性期統合失調症者の実行機能を高める介入プログラムの効果を検証した。10名を対象に、Lezakの概念モデルに基づいた介入プログラムとして、特定課題ルーチン訓練を行った。プログラムの評価には実行機能評価BADSを用いた。介入前後における指標得点に改善が認められ、慢性期統合失調症者の実行機能（プランニング能力）と日常活動の改善を促す効果が確認された。</p> <p>共著者：D. Fukuta, S. Ikeuchi, H. Takita, C. Mori 担当部分：研究計画，データ収集・データ分析に関わりポスター発表した。</p>
<p>6. Verification of Reliability and Validity of a Scale Assessing the Competence of Psychiatric Nurses (精神科看護職者の看護実践能力評価尺度の信頼性と妥当性の検証)</p>	-	令和3年7月	32th International Nursing Research Congress, Sigma Theta Tau International (シンガポール・オンライン開催)	<p>精神科看護職者の看護実践能力を評価する尺度を作成し、信頼性と妥当性を検討した。看護職者206名を対象に質問紙調査を実施した。探索的因子分析により尺度は原案の53項目から計37項目となり、第1因子「患者－看護師関係を形成する力」、第2因子「専門知識を活用する力」、第3因子「患者の主体性を引き出す力」、第4因子「安全なケアを意識する力」、第5因子「自己研鑽を続ける力」が抽出された。本尺度の信頼性と妥当性が確認された。</p> <p>共著者：D. Fukuta, C. Mori 担当部分：研究計画，質問紙作成，データ収集・データ分析に関わりポスター発表した。</p>

<p>5. Characteristics of Executive Dysfunction Interfering With the Ability of Chronic Schizophrenia Patients to Live Independently (慢性期統合失調症者の自立生活に影響を与える実行機能障害の特徴)</p>	—	令和元年7月	30th International Nursing Research Congress; Sigma Theta Tau International (カリガリー)	<p>慢性期統合失調症者の日常生活行動における実行機能障害の特徴について、8名を対象に実行機能評価BADsを用いて検討した。全般的な実行機能障害とプランニング、シフティングの実行機能に低下が認められた。この特徴は、軽度認知障害患者の実行機能障害の特徴と類似性が示唆された。今後、研究者らが開発した実行機能を高める看護介入プログラムを慢性期統合失調症者へ応用し、効果を検証することが課題であると考えられた。</p> <p>共著者：D. Fukuta, S. Ikeuchi, H. Kawasaki, T. Amezawa, C. Mori 担当部分：研究計画，データ収集・データ分析に関わりポスター発表した。</p>
<p>4. Developing the Short Version of a Scale Assessing Clinical Instructors' Effective Clinical Teaching Behaviors (看護学実習における臨地実習指導者評価尺度短縮版の作成)</p>	—	平成30年7月	29th International Nursing Research Congress ; Sigma Theta Tau International (メルボルン)	<p>看護学実習における臨地実習指導者の指導内容を評価するECTB (臨床教育行動評価尺度) 短縮版の有用性を検証した。看護学生784名を対象に質問紙調査を実施した。探索的因子分析により尺度は計14項目となり、構成概念として「学習経験の促進」「学習意欲の向上」が抽出された。本尺度の信頼性と妥当性が示された。また、臨地実習指導者の効果的な指導を支援するための臨床教育や研修に活用可能であることが示唆された。</p> <p>共著者：D. Fukuta, T. Ishitsuka, J. Suzuki, C. Mori 担当部分：研究計画，質問紙作成，データ収集・データ分析に関わりポスター発表した。</p>
<p>3. Effects of the intervention program to improve executive functions of early-stage dementia (初期認知症者の実行機能を高めるための介入プログラムの効果)</p>	—	平成27年10月	American Psychiatric Nurses Association 29th Annual Conference (フロリダ)	<p>初期認知症者の実行機能を高める介入プログラムの効果を検証した。10名を対象に、Lezakの実行機能の概念と自己教示訓練、問題解決訓練、特定課題ルーチン訓練の理論を応用したプログラムを作成し、介入を行った。プログラムの評価には実行機能評価BADsと手段的ADL評価尺度を用いた。介入前後におけるこれらの指標得点に改善が認められ、初期認知症者の実行機能とプランニング能力を高める看護介入プログラムの効果が確認された。</p> <p>共著者：D. Fukuta, C. Mori 担当部分：研究計画，データ収集・データ分析に関わりポスター発表した。</p>
<p>2. The Relationship Between Executive Dysfunction and Instrumental ADL in Early-Stage Dementia (初期認知症者の実行機能障害と手段的ADLの関連性の検討)</p>	—	平成26年8月	Proceedings of the 25th International Nursing Research Congress; Sigma Theta Tau International (香港)	<p>初期認知症者の認知機能障害と生活障害との関連性について、35名を対象に実行機能評価BADsと注意機能評価TMT、手段的ADL評価尺度を用いて検討した。初期段階では実行機能障害及び注意機能障害と手段的ADLの低下に関連性を認め、これらの機能障害が患者の日常生活の遂行に影響を与えていることが明らかとなった。また、わが国における初期認知症者を対象としたBADsの有用性が示唆された。</p> <p>共著者：D. Fukuta, C. Mori 担当部分：研究計画，データ収集・データ分析に関わりポスター発表した。</p>

<p>1. Validity and Reliability of the Japanese Version of the Alcohol and Alcohol Problems Perception Questionnaire (日本語版アルコールに関連した問題のある患者に対する態度尺度AAPPQの信頼性と妥当性の検討)</p>	—	平成25年10月	Tsukuba Global Science Week (つくば市)	<p>アルコールに関連した問題のある患者に対する態度尺度 (AAPPQ) の日本語版の有用性を検証した。886名を対象に質問紙調査を実施した。探索的因子分析により尺度の構成概念として「看護の自信」「同僚のサポート」「看護への興味・関心」「役割に伴う自尊心」「対応困難」が抽出され、本尺度の信頼性と妥当性が示された。尺度原版と比較すると、言語や文化的要因が構成概念に影響していた。 共著者：<u>D. Fukuta</u>, Y. Ohmori, T. Sugaya, C. Mori 担当部分：研究計画、質問紙作成、データ収集・データ分析に関わり口頭発表した。</p>
<p>2 国内学会発表 39. 特定行為区分別科目の実習場所と看護師の看護実践自己評価および満足度との関連</p>	—	令和4年12月	第42回日本看護科学学会学術集会 (オンライン開催)	<p>特定行為区分別科目の実習場所と看護師の看護実践自己評価および満足度との関連性について検討した。区分別科目の臨地実習において自分が所属している施設で実習を行った看護師は、医療スタッフとの協働やチームワークを円滑に築きやすく、多様な場面において根拠に基づいた特定行為を実践できていたと評価していた。 共著者：鈴木淳子, 根本享子, 石塚孝子, <u>福田大祐</u> 担当部分：研究計画、質問紙作成、データ収集・データ分析に関わった。</p>
<p>38. 特定行為研修の区分別科目実習における看護実践自己評価票の作成の試み</p>	—	令和4年8月	日本看護学教育学会 第32回学術集会 (オンライン開催)	<p>特定行為研修の区分別科目実習における看護実践自己評価票を試作し、その妥当性と信頼性を検討した。因子分析により生成された3因子の構成概念は、文献的統合により抽出した要素を基盤に説明することができ妥当性が確保されていると判断した。信頼性を示すα係数は尺度全体と下位因子において0.7以上であり内的整合性は保たれていると考えられた。 共著者：根本享子, 鈴木淳子, 石塚孝子, <u>福田大祐</u> 担当部分：研究計画、質問紙作成、データ収集・データ分析に関わった。</p>
<p>37. デイケア通所中の統合失調症者への看護介入の評価 — 実行機能とプランニング能力に着目して —</p>	—	令和4年8月	日本看護研究学会 第48回学術集会 (オンライン開催)	<p>慢性期統合失調症者の実行機能とプランニング能力を高める看護介入プログラムを作成し、その効果を検証した。デイケアへ通所中の慢性期統合失調症者を対象に実行機能を高めるプログラムの効果を検証したところ、全般的な実行機能と下位検査で評価されるプランニング能力の障害が改善され、選択した課題を行う自信が高まっていた。 共著者：<u>福田大祐</u>, 池内彰子, 森千鶴. 担当部分：研究計画、データ収集・データ分析に関わり、ポスター発表を行った。</p>

36. 慢性期統合失調症者の生活と実行機能との関連	—	令和4年6月	日本精神保健看護学会第32回学術集会（オンライン開催）	慢性期統合失調症者の実行機能と生活機能に影響を与える要因を分析し、その関連性を検討した。実行機能障害の日常生活への影響を強く感じている者ほど精神症状を自覚しており、生活機能が低い傾向にあると考えられた。一方、自宅生活者は実行機能のうち時間的長さの推測能力が高く、買い物や食事の準備など自立して生活できていた。 共著者：福田大祐，池内彰子，森千鶴。 担当部分：研究計画，データ収集・データ分析に関わり，ポスター発表を行った。
35. 特定行為研修の共通科目における予診演習の学習効果に関する予備調査	—	令和3年11月	第41回日本看護科学学会学術集会（オンライン開催）	看護師特定行為研修の共通科目の予診演習において、看護師の学習内容を評価し予診の実施に必要な能力を検討した。指定研修機関で演習を行った研修生81名を対象に、質問紙調査を実施した。看護師は予診を行う基本姿勢とコミュニケーション技術、緊急度や重症度の判断が求められていた。また、系統立てた情報収集と問診の練習を通して病歴聴取の知識や技術を修得し、情報と疾患・症状との繋がりや鑑別診断等の予診に必要な思考過程の理解が重要になることが示唆された。 共著者：石塚孝子，鈴木淳子，根本享子，楠見由里子，福田大祐 担当部分：研究計画，質問紙作成，データ分析に関わった。
34. 救急領域に関連した特定行為の臨地実習における看護師の学びと今後の課題について	—	令和3年11月	第41回日本看護科学学会学術集会（オンライン開催）	看護師特定行為研修の救急領域に関連した臨地実習における看護師の学びと今後の課題を検討した。指定研修機関または協力施設で実習を行った研修生123名を対象に、質問紙調査を実施した。救急領域に関連した特定行為の臨地実習では、特定行為の知識や手技、判断の学びを活用していくため、今後は自施設における看護師の継続した学習や訓練、実践方法を検討することが課題であると示唆された。 共著者：根本享子，鈴木淳子，石塚孝子，楠見由里子，福田大祐 担当部分：研究計画，質問紙作成，データ分析に関わった。
33. 看護師特定行為研修の区分別科目実習における指導体制の検討	—	令和3年8月	第31回日本看護学教育学会学術集会（オンライン開催）	看護師特定行為研修の区分別科目実習において、看護師が特定行為を修得していくために求められる指導者の指導内容を検討した。指定研修機関または協力施設で実習を行った研修生112名を対象に、質問紙調査を実施した。特定行為実践や安全管理、医療面接等を学習する指導体制が充実することで、看護師の総合評価や実習満足度が高くなる傾向が考えられた。患者の全身状態評価やエビデンスに基づいた特定行為の判断に関わる目標達成への指導の肯定的評価は、看護師の実習満足度を高めていた。 共著者：鈴木淳子，石塚孝子，根本享子，福田大祐 担当部分：研究計画，質問紙作成，データ分析に関わった。

32. 看護師特定行為研修の共通科目臨地実習における指導者評価に関する予備的調査	—	令和元年12月	第39回日本看護科学学会学術集会（金沢市）	看護師特定行為研修制度の共通科目臨地実習において、指導者の指導内容を評価する項目を検討した。指定研修機関1施設で実習を行った研修生37名を対象に、質問紙調査を実施した。医療面接やフィジカルアセスメントの実践を学ぶ指導体制、疾患を包括的にアセスメントする基礎的能力の向上を目指し他職種と協働するチーム医療の実践に関する指導への肯定的評価は実習満足度、総合評価を高めていた。 共著者：根本享子，石塚孝子，梶山陽子，楠見由里子， <u>福田大祐</u> 担当部分：研究計画，質問紙作成，データ収集・データ分析に関わった。
31. A県における在宅精神疾患療養者と家族のケアニーズと訪問看護の課題 第1報 訪問看護の現状と管理者の困難感	—	令和元年12月	第39回日本看護科学学会学術集会（金沢市）	A県における精神疾患療養者への訪問看護の現状と、管理者の困難感について調査を行った。A県内で精神疾患療養者への訪問看護を行っている訪問看護事業所101施設の管理者を対象に質問紙調査を実施した。精神疾患療養者本人と家族の高齢化に伴う問題，身体合併症の管理等，多様な課題が示された。それらは管理者が抱く困難感の主な要因になっていることが示唆された。 共著者：池内彰子， <u>福田大祐</u> ，長谷川陽子 担当部分：研究方法の検討，データ分析に関わった。
30. ノンテクニカルスキル教育に関する看護研究の動向と課題	—	平成29年12月	第37回日本看護科学学会学術集会（仙台市）	看護基礎教育においてノンテクニカルスキル教育の研究動向と課題を明らかにするため，国内外の文献29件（国外25件，国内4件）を選定し文献レビューを行った。急性期・周手術期看護の分野で，ヒューマンエラーを防止し，安全を確保していくために必要な看護師のスキルとして教育の普及が進んでいる傾向にあった。看護基礎教育の段階からノンテクニカルスキルに関する教育方法を構築し，臨床実践に応用することが課題であると考えられた。 共著者： <u>福田大祐</u> ，飯塚麻紀 担当部分：研究計画，データ収集・データ分析に関わりポスター発表した。
29. 看護教育場面における現象学的研究の文献レビュー	—	平成29年12月	第37回日本看護科学学会学術集会（仙台市）	国内外の看護教育における現象学的研究を概観し，今後の看護教育への現象学の活用可能性を検討した。2012年～2016年の5年間の文献検索を行った。対象文献は計25件（国内7件，国外18件）であった。看護教育分野別に文献を統合したところ，「学生理解」「臨地実習指導」「教育プログラム」「教授方略」「倫理教育」「大学院教育」の6つに分類された。今後は，教育プログラムや教授方法，大学院教育での現象学的研究の活用が求められると示唆された。 共著者：飯塚麻紀，榎本佳子， <u>福田大祐</u> 担当部分：研究方法の検討，データ分析に関わった。

28. 看護学生の精神看護学実習における実習指導者評価—成人看護学実習との比較から—	—	平成28年12月	第36回日本看護科学学会学術集会（千代田区）	<p>「看護学生の教員評価調査票」の臨地実習指導者を対象とした短縮版を用いて精神看護学実習における指導者評価を比較した。看護学生263名を対象に質問紙調査を実施した。精神看護学実習における指導者の役割として、精神疾患を持つ患者との関わりを通して実際の看護場面で指導者がモデルを示すこと、学生が実習目標の達成につながる看護援助が経験できるようベッドサイドでの実践的指導を行なうことが重要であると示唆された。</p> <p>共著者：福田大祐，石塚孝子，鈴木淳子 担当部分：研究計画，質問紙作成，データ収集・データ分析に関わりポスター発表した。</p>
27. 看護師特定行為研修のためのICT システムデザイン	—	平成28年8月	第41回教育システム情報学会全国大会（宇都宮市）	<p>筑波大学附属病院で実施する看護師特定行為研修事業において、e-learningを活用したICT環境のデザインと整備について紹介した。大学病院でLMSの運用を導入するためには、職員の情報リテラシーを高めていくことが必要となる。本院において導入した、LMS+e-ポートフォリオ、Wifi環境の整備、メール環境のシステムについて検討した。</p> <p>共著者：讃岐勝，福田大祐，石塚孝子 担当部分：研究方法の検討に関わった。</p>
26. 初期認知症者の家族からみた遂行機能障害の変化—看護介入プログラムによる影響—	—	平成27年12月	第35回日本看護科学学会学術集会（広島市）	<p>初期認知症者の遂行機能を高める介入プログラムについて、家族による客観的評価からプログラムの有用性を検討した。初期認知症者とその同居中の家族各10名を対象に、介入前後にDEX（遂行機能障害質問紙）を評価した。患者本人の遂行機能障害に対する認識は低くかったが、家族は患者の遂行機能の変化を感じやすいことが考えられた。また遂行機能の改善は、家族の認知や情動に影響し、日常生活への不安軽減につながる可能性が示唆された。</p> <p>共著者：福田大祐，森千鶴 担当部分：研究計画，看護介入，データ収集・データ分析に関わり口頭発表した。</p>
25. 看護学生の实習指導者評価による指導方法の検討—実習領域別の比較から—	—	平成27年7月	第25回日本看護学教育学会学術集会（徳島市）	<p>看護学生の实習指導者評価調査票を用いて、実習領域別における臨地実習指導者の指導方法の実態について調査した。看護学生366名を対象に質問紙調査を実施した。定期的に指導者教育研修を受講している指導者と実習後に実習の振り返りが行われている領域において得点が高い傾向にあった。また、専門的知識の習得と学習目標が到達できるよう意識した指導方法は学生の学びや肯定的評価を高めていた。</p> <p>共著者：福田大祐，石塚孝子，倉持亨子 担当部分：研究計画，質問紙作成，データ収集・データ分析に関わりポスター発表した。</p>

24. 認知症者への認知力アッププログラム実施前後の認知機能の変化	—	平成27年6月	第25回日本精神保健看護学会学術集会（つくば市）	精神科デイケアに通所し認知力アッププログラムに参加している認知症者の認知機能の変化について調査した。36名を対象に、精神保健医療福祉チームと協働し認知機能訓練、運動療法、生活療法、音楽療法、芸術療法を半年間実施し、MMSEを用いて介入前後で評価した。介入後において全般的な認知機能に改善が認められ、さらに訴えの変化から家族・介護者のプログラム参加を促すことにより患者及び家族のQOL向上が期待できることが明らかとなった。 共著者：新沼館卓弥， <u>福田大祐</u> 担当部分：研究計画，データ収集・データ分析に関わった。
23. 初期認知症者の日常生活における自信を高める看護介入プログラムの作成	—	平成27年6月	日本精神保健看護学会第25回学術集会（つくば市）	初期認知症者の日常生活の遂行において、自信を高める看護介入プログラムを実施し、活用可能性を検証した。10名を対象にプログラムを2週間実施し、自信の変化をVASで評価した。介入後には自信が高まり、プログラム内容が退院後の生活をイメージした構成であったことから有意な評価が得られたと考えられた。介入プログラムを通じた看護援助は認知症者の日常生活と向き合い治療的な関係性の構築にもつながることが示唆された。 共著者： <u>福田大祐</u> ，森千鶴 担当部分：研究計画，看護介入，データ収集・データ分析に関わり口頭発表した。
22. 精神科看護師の精神疾患合併妊婦に対する態度—出産前後についての面接調査から—	—	平成27年6月	日本精神保健看護学会第25回学術集会（つくば市）	精神疾患・症状のある妊婦の出産に関わる問題について相談を受け、リエゾン精神看護の視点から実際に行っているケアや多職種・他部署との連携・調整、倫理的問題について検討した。看護師10名を対象に半構成的面接を実施した。産科とのサポート体制を強化することで患者の精神的安寧につながると推察された。精神疾患の合併により児との愛着形成が阻害される可能性があり、出産前からマタernalアタッチメントを促進していくことが重要な役割であると考えられた。 共著者：小原梨那，篠崎まゆみ， <u>福田大祐</u> ，神森洋美，松浦広美， 担当部分：研究計画，データ収集・データ分析に関わった。
21. 精神看護学実習における看護学生の臨床実習指導者に対する評価と実習満足度・目標達成度との関連	—	平成27年6月	日本精神保健看護学会第25回学術集会（つくば市）	精神看護学実習における看護学生の実習指導者に対する肯定的評価と実習満足度、学習目標達成度との関連性について調査した。看護学生52名を対象に質問紙調査を実施した。実習満足度が高いほど実習指導者との関係性や指導内容についての評価が高かった。また指導者が専門職としてのモデルを示すことで実習意欲の向上につながると示唆された。 共著者：石塚孝子， <u>福田大祐</u> 担当部分：研究計画，質問紙作成，データ収集・データ分析に関わった。

20. 初期認知症者の注意機能障害と遂行機能障害の特徴	—	平成26年11月	第34回日本看護科学学会学術集会（名古屋市）	<p>初期認知症者の認知機能障害と生活障害との関連性について、32名を対象に注意機能評価TMTと遂行機能評価BADSを用いて検討した。認知症の初期段階において、注意機能及び遂行機能の低下が認められ、両機能の相関性も明らかとなった。遂行機能の構成概念のうち、「計画の立案」と「計画の実行」に関する能力の低下が認められた。初期認知症者の看護援助において注意機能と遂行機能を適切に捉えることが重要であると考えられた。</p> <p>共著者：福田大祐，森千鶴 担当部分：研究計画，データ収集・データ分析に関わり口頭発表した。</p>
19. 身体表現性障害患者の疼痛性障害に対する筋弛緩法の疼痛軽減効果	—	平成26年10月	第45回日本看護学会—精神看護—学術集会（松本市）	<p>疼痛性障害に身体表現性障害を合併した患者1例の看護について相談を受け、リエゾン精神看護の視点から支持的面接と漸進的筋弛緩法を実施し、介入前後における疼痛と不安の軽減効果について検討した。介入は4週間行い、不安（STAI），痛み（PCS及びフェイススケール）を経時的に評価した。また、各指標の得点の推移から筋弛緩法を痛みが強くなる前の時間帯に実施することで、不安と疼痛軽減に効果的であることが示唆された。</p> <p>共著者：松浦広美，福田大祐，篠崎まゆみ 担当部分：研究計画，看護介入，データ収集・データ分析に関わった。</p>
18. 臨地実習における指導者役割と看護学生の肯定的評価との関連性について	—	平成26年8月	第24回日本看護学教育学会学術集会（千葉市）	<p>臨地実習における指導者役割と看護学生の肯定的評価との関連性について調査した。看護学生912名を対象に質問項目「実習指導者に対する意見」の自由記載をし依頼した。「指導者からの的確なアドバイス」「指導者の看護観」「指導方法の一貫性」等の7つのカテゴリーが生成された。また看護学生の肯定的評価を促すには、学生が実習しやすいと感じる病棟の環境調整、指導者自身の責任感が指導者役割として重要であると考えられた。</p> <p>共著者：福田大祐，石塚孝子，倉持亨子 担当部分：研究計画，質問紙作成，データ収集・データ分析に関わりポスター発表した。</p>
17. 初期の認知症者における遂行機能障害とIADLとの関連性の検討	—	平成26年7月	第37回日本看護研究学会学術集会（奈良市）	<p>初期認知症者の認知機能障害と生活障害との関連性について、30名（患者とその家族）を対象に遂行機能評価BADSとDEX（遂行機能障害質問表），注意機能評価TMT，手段的ADL評価尺度を用いて検討した。初期認知症者の遂行機能障害が認められ、注意機能や手段的ADLの低下との関連性も明らかとなった。また、患者本人の遂行機能障害の自覚は低かったが、家族は患者の遂行機能障害を早期から捉えやすい立場にいることが明らかとなった。</p> <p>共著者：福田大祐，森千鶴 担当部分：研究計画，データ収集・データ分析に関わり口頭発表した。</p>

16. 精神科看護師の職業的アイデンティティに影響する要因の検討ー役割受容とアルコール依存症者に対する態度との関連性からー	—	平成26年6月	日本精神保健看護学会第24回学術集会（横浜市）	精神科看護師の職業的アイデンティティに関連する要因について検討した。看護師409名を対象に職業的アイデンティティ尺度、役割受容尺度、日本語版AAPPQを用いて質問紙調査を実施した。自分の生き方や役割に満足している看護師は、職業選択に誇りを感じ後輩のモデルとしての役割を果たしていると感じていた。アルコール依存症者に対し看護師の役割を果たすための自信がある者は、看護の発展への自負が高いことが示唆された。 共著者：福田大祐，菅谷智一，森千鶴 担当部分：研究計画，質問紙作成，データ収集・データ分析に関わり口頭発表した。
15. 看護学生の実習満足度に影響する因子ー実習指導者の態度と実習環境との関連からー	—	平成26年2月	第26回茨城県看護研究会（茨城県稲敷郡）	看護学生の実習満足度に影響する因子について、臨地実習指導者の対応と実習環境との関連性から検討した。看護学生912名を対象に独自に作成した質問紙（計20項目）を用いて調査した。看護学生の実習満足度を高めていた要因は、指導者やスタッフの親身な関わり方や対応、臨地実習をスムーズに進めるためのオリエンテーションの実施、医療末端（電子カルテやPC）・参考書の充実性が関連していた。 共著者：石塚孝子，福田大祐，白川洋子 担当部分：研究計画，質問紙作成，データ収集・データ分析に関わった。
14. 総合病院に勤務する看護師の院内研修とワークライフバランスとの関連ー院内Webアンケート調査からー	—	平成26年2月	第26回茨城県看護研究会（茨城県稲敷郡）	総合病院に勤務する看護職員の新人・継続教育の質改善の視点から、看護師のワークライフバランスと院内研修のあり方について調査した。看護師682名を対象にWeb版アンケートを調査した。急変時や救急・急性期看護、終末期看護に関する研修のニーズが高く、さらにワークライフバランスやメンタルヘルス支援を考慮し臨床現場の質改善をめざした研修内容を計画していく必要があることが明らかとなった。 共著者：福田大祐，石塚孝子，白川洋子 担当部分：研究計画，データ収集・データ分析に関わり口頭発表した。
13. アルコール依存症者に対する精神科看護者の態度ー日本語版アルコール依存症態度尺度を用いてー	—	平成25年12月	第33回日本看護科学学会学術集会（大阪市）	アルコール依存症者への看護者の態度に関連する要因について検討した。看護職者886名を対象に日本語版AAPPQを用いて質問紙調査を実施した。アルコール依存症者の看護や講義受講の経験があり、飲酒習慣のある看護者は必要な知識や自信、他者からの支援があると感じ、好ましい態度をとることが考えられた。今後はアルコール問題の看護経験や教育支援を促すこと、看護者の飲酒習慣を把握することが必要であると考えられた。 共著者：福田大祐，菅谷智一，森千鶴 担当部分：研究計画，質問紙作成，データ収集・データ分析に関わり口頭発表した。

12. アルコール依存症患者への精神科看護師の態度に関連する要因の検討	—	平成25年7月	第39回日本看護研究学会学術集会（秋田市）	精神科看護師のアルコール依存症患者への態度に関連する要因について検討した。看護職者370名を対象に研究者が翻訳を行った日本語版Alcohol and Alcohol Problems Perception Questionnaire (AAPQ) を用いて質問紙調査を実施した。精神科臨床経験が10年以上でアルコール依存症の看護経験がある看護師は患者に好ましい態度をもつことが認められた。今後はアルコール依存症の看護経験や学習を支援することが課題であると考えられた。 共著者：福田大祐，森千鶴 担当部分：研究計画，質問紙作成，データ収集・データ分析に関わり口頭発表した。
11. 看護学生の実習満足度に影響する要因の検討（その2）－実習環境との関連から－	—	平成25年7月	第23回日本看護学教育学会学術集会（仙台市）	看護学生の実習満足度と実習環境との関連性について検討した。看護学生377名を対象に質問紙（計20項目）調査を実施した。学生が困惑している場面で指導者が適切な助言が行えるか，指導者以外のスタッフが学生の話をお聴くことができるかが満足度に影響していた。また，指導者や病棟スタッフに対して，実習場面におけるリフレクシオン教育を行っていくことで，実習満足度の向上につながることを示唆された。 共著者：石塚孝子，福田大祐，倉持亨子 担当部分：研究計画，質問紙作成，データ収集・データ分析に関わった。
10. 看護学生の実習満足度に影響する要因の検討（その1）－実習指導者の態度との関連から－	—	平成25年7月	第23回日本看護学教育学会学術集会（仙台市）	看護学生の実習満足度と実習指導者の態度との関連性について検討した。看護学生377名を対象に質問紙（計20項目）調査を実施した。指導者の態度を良好に捉えていた学生は満足度が高く，助言や指導が適切であったと評価していた。指導者は学生の視点から適切な助言や指導が行えているか，自身の看護観について言葉で伝えているか，実習指導の中で自らの態度を振り返ることが必要であると考えられた。 共著者：福田大祐，石塚孝子，倉持亨子 担当部分：研究計画，質問紙作成，データ収集・データ分析に関わりポスター発表した。
9. 精神科看護師の共感性に関連する要因の検討	—	平成25年5月	日本精神保健看護学会第23回学術集会（京都市）	精神科看護師の個人的特性と共感性との関連について調査した。看護職者233名を対象に多次元共感測定尺度を用いて，質問紙調査を実施した。看護師の新人・継続教育として年齢や臨床経験が少ない者は援助の必要な場面で動揺しやすい傾向にあること，メンタルヘルス支援として看護師の共感性には情動的側面である個人的苦悩が大きく関連していることが重要な視点であると示唆された。 共著者：福田大祐，森千鶴 担当部分：研究計画，質問紙作成，データ収集・データ分析に関わり口頭発表した。

8. 看護師の共感性および役割受容と親の飲酒問題との関連	—	平成24年10月	第43回日本看護学会—看護管理—学術集会(京都市)	<p>看護師の役割受容及び共感性とその親の飲酒問題との関連性を検討するために、看護師72名を対象に質問紙調査を実施した。質問紙は役割受容尺度、多次元共感測定尺度、CAST日本語版を用いた。親に飲酒問題の可能性のある看護師は、親の飲酒問題が自身の対人関係に影響を与える可能性が示唆された。親に飲酒問題のない看護師は、自分が果たすべき役割に対し消極的になりやすい傾向があることが明らかとなった。</p> <p>共著者：小原梨那，<u>福田大祐</u>，篠崎まゆみ，森千鶴</p> <p>担当部分：研究計画，質問紙作成，データ収集・データ分析に関わった。</p>
7. 臨地実習における看護学生の満足度・達成度と指導者の対応・実習環境の関連について	—	平成24年7月	第22回日本看護学教育学会学術集会(熊本市)	<p>看護学実習における学生の実習満足度・達成度と臨地実習指導者の対応・実習環境との関連性について検討した。看護学生107名を対象に質問紙(計21項目)調査を実施した。学生の実習満足度と達成度には、指導者が学生に対して自身の看護観を明示することや学生カンファレンスに積極的に参加することが必要であることが明らかとなった。また、指導者以外のスタッフとの連携や調整により学生指導をサポートしていくことも重要であることが考えられた。</p> <p>共著者：<u>福田大祐</u>，石塚孝子，倉持亨子</p> <p>担当部分：研究計画，質問紙作成，データ収集・データ分析に関わりポスター発表した。</p>
6. 脳波上基礎律動が消失したレビー小体型認知症末期患者への援助効果	—	平成23年12月	第18回日本精神科看護学会専門学会Ⅱ(岐阜市)	<p>遷延性意識障害のあるレビー小体型認知症の末期患者1例について、ターミナルケアの観点からPerson-Centered-Care(PCC)の看護援助を実施し評価した。看護介入はPCCの概念をもとに、ADLの回復を目的とした音楽療法、回想法の非薬物療法を行った。徐々に発語が増加し、数歩の歩行が可能となった。「その人らしさ」に着目した看護援助により、精神機能と身体機能の回復を促す効果が示唆された。</p> <p>共著者：<u>福田大祐</u>，岡村志津英，関紀枝子</p> <p>担当部分：研究計画，看護介入，データ収集・データ分析に関わり口頭発表した。</p>
5. アディクション問題への看護援助の実態に関する予備的調査	—	平成23年10月	第10回日本アディクション看護学会学術集会(つくば市)	<p>精神科看護師のアディクション問題への体験について、14名を対象に半構成的面接を実施した。臨床経験の中で印象深い看護場面を想起してもらい、看護師へのメンタルヘルス支援について検討した。印象深いアディクション問題は過食、自傷行為に分けられた。患者が問題を自覚しながらも問題行動を繰り返し、十分な援助効果をお互いが得られないまま退院に至るケースが多く、苦難を感じながらも患者と向き合う看護師への支援も重要になると示唆された。</p> <p>共著者：<u>福田大祐</u>，篠崎まゆみ，小原梨那</p> <p>担当部分：研究計画，データ収集・データ分析に関わり口頭発表した。</p>

4. 精神科救急をキーワードとした看護研究の動向と課題	—	平成21年9月	日本精神科救急学会第17回大会（山形市）	精神科救急をキーワードとした看護研究を分析し看護の方向性と課題を検討した。2004年～2009年までの文献検索を行い「精神科救急」に関連した原著論文56編を分析し「患者－看護師関係」「行動制限」「リスクマネジメント」「社会復帰」「家族」等の9つのカテゴリーが生成された。今後は、精神疾患を抱えた高齢患者への援助方法や地域及び多職種との連携・調整の現状について調査を行うことが課題であると考えられた。
3. 攻撃行動を繰り返し行動制限を必要とした青年期自閉症患者の一例	—	平成20年7月	第33回日本精神科看護学会学術集会（大阪市）	他者への暴力行為を繰り返し行動制限を必要とした青年期自閉症患者1例への対応について相談を受け、リエゾン精神看護の視点から研究者が行動療法の介入を提案し、攻撃行動が改善された経過を振り返った。行動療法では暴力行為を抑制できた場合には行動制限を緩和する報酬（トークンエコノミー法）を行った。日々の日課として作業療法を導入し、行動化に至る要因を受容、共感することで攻撃行動は改善された。
2. 心理的虐待を受けた患者の行動化に至る心の機序を理解するまで	—	平成18年7月	第13回日本精神科看護学会思春期・青年期精神科看護専門学会（山形市）	幼児期から両親に心理的虐待を受け自殺企図を繰り返した特定不能な精神障がい者1例について、患者と看護師の日記を通した看護援助を振り返り行動化に至る心の機序を分析した。心理的虐待により言語化が困難な患者とのコミュニケーション方法として日記を用いたことで、患者に情緒的な安らぎをもたせ心理的な問題をコントロールする方法を得る機会となった。また、情緒への同調が行えたことにより、自己価値が高まったことが示唆された。 共著者：鈴木砂由里，岸泉，福田大祐 担当部分：研究計画，データ分析に関わった。
1. 高校生・看護学生の「子どもの権利条約」の認知度と権利に対する被遵守度，重要度の実態について	—	平成17年8月	第9回北日本看護学会学術集会（秋田市）	「子どもの権利条約」の権利がどの程度守られているか（被遵守度），大事だと考えているか（重要度）を調査した。高校生226名，看護学生93名を対象に，子どもの権利条約の認知度と17権利に対する非遵守度，重要度について質問紙調査を行った。子どもの権利条約に対する認知度，非遵守度，重要度は看護学生の方が高く，認知度が高くなるほど非遵守度，重要度が高い傾向が明らかとなった。 共著者：福田大祐，佐藤幸子，山本三奈 担当部分：研究計画，質問紙作成，データ収集・データ分析に関わり口頭発表した。
3 報告書 1. 慢性期統合失調症者の実行機能障害と手段的ADLとの関連性の検討	共	令和4年3月	常磐看護学研究雑誌，4巻，pp. 67-71	研究課題「慢性期統合失調症者の実行機能障害と手段的ADLとの関連性の検討」について常磐大学課題研究助成を受けた。本研究では慢性期統合失調症者の実行機能障害の特徴と手段的ADLとの関連性を検討した。研究の結果，慢性期統合失調症の手段的ADLの低下には実行機能のプランニング能力の障害が関連しており，実行機能を高める看護介入の必要性が示唆された。 研究者：福田大祐（研究代表者），池内彰子，森千鶴 担当部分：研究計画，データ収集・データ分析，論文執筆等の研究の統括に関わった。

2. 茨城県における在宅精神疾患療養者と家族のケアニーズと訪問看護サービスの実態	共	令和4年3月	常磐看護学研究雑誌, 4巻, pp. 61-65	研究課題「茨城県における在宅精神疾患療養者と家族のケアニーズと訪問看護サービスの実態」について常磐大学課題研究助成を受けた。本研究では茨城県において精神疾患療養者と家族への地域生活支援として主要な役割を果たしている精神科訪問サービスの現状を検討した。研究の結果、訪問看護師は身体症状の管理や倫理的な判断が求められ、現状に即した教育の必要性が示唆された。 研究者：池内彰子（研究代表者）、 <u>福田大祐</u> 、長谷川陽子 担当部分：調査及び分析に関わった。
3. 看護実践に必要な考える力を養う教育の検討	共	令和4年3月	常磐看護学研究雑誌, 4巻, pp. 51-55	研究課題「看護実践に必要な考える力を養う教育の検討」について常磐大学課題研究助成を受けた。本研究では看護学生が看護実践に必要な考える力を養うための教育方法を検討した。研究の結果、考える力を養う教育方法により学生が効果的に看護展開を学修する方略を示していくことが可能であると示唆された。 研究者：沼口知恵子（研究代表者）、前田和子、細矢智子、 <u>福田大祐</u> 、他8名 担当部分：教育方法の検討、調査及び分析に関わった。
4. 地域包括ケアシステムを活用した看護基礎教育の充実	共	令和4年3月	常磐看護学研究雑誌, 4巻, pp. 45-49	研究課題「地域包括ケアシステムを活用した看護基礎教育の充実」について常磐大学課題研究助成を受けた。本研究では地域でその人らしく健康に暮らすことを支える看護ができる人材育成を図るため、地域包括ケアシステムの実際から効果的な看護基礎教育方法の考案を検討した。研究の結果、モデル市との連携体制を構築し、実際の活動を重視した現地演習方法を考案することができた。 研究者：市川定子（研究代表者）、村井文江、前田和子、 <u>福田大祐</u> 、他6名 担当部分：教育方法の検討、調査及び分析に関わった。